

週刊 YEAR BOOK

1970
昭和45年

日録20世紀

311

平成9年3月11日発行
(毎週1回発行)第1巻第4号

¥550
講談社



三島由紀夫 割腹自殺!

EXPO'70で日本も大国の仲間入り
初のハイジャック!「よど号」の122時間
ウーマン・リブの高まり、米国10万人デモ

3兆3000億円の経済効果! EXPO'70が日本を「大国」に押しあげた

世界77カ国が参加した万国博は、高度経済成長を加速させた日本の、「大国入り」宣言でもあった。一方この年、生産至上主義が各地で公害問題を引き起こし、物質万能の風潮への反省から、「古きよき日本」を再発見する「ディスカバー・ジャパン」のキャンペーンが始まる。



▲会場では117の建造物が偉容を誇り、それぞれのお国柄をアピールした。博覧会終了後はほとんどが取り壊され、跡地は「万国博記念公園」として整備された。朝日新聞社

三回目の誘致で実現した博覧会史上最大の祭典

万国博覧会が最初に開かれたのは一八五一年、ロンドンだった。その一年後にもロンドンで開かれた博覧会を、福沢諭吉ら三六名の遣欧使節が見学し、西洋の技術に目を丸くしている。以来、富国強兵・殖産興業を国是とした日本は、その成果を世界に示そうと万国博の誘致を試みた。最初の一九〇七年（明治四〇）は世界から相手にされず、二回目の一九四〇年（昭和一五）は戦争で流れた。まさに三度目の正直、日本万国博覧会（EXPO'70）は一九七〇年三月一四日に開幕した。テーマは「人類の進歩と調和」だった。初期の万国博が機械文明を謳歌していたのに対し、戦後はヒューマニズムをテーマにうたうようになっていた。大阪府千里丘陵に造成された三三〇万平方メートルの会場の中心には、岡本太郎設計・制作の「太陽の塔」が建てられ、一七のパビリオンが展示を競った。

とりわけ人気だったのが、一〇二メートルの尖塔がそそり立ち、二万五〇〇〇平方メートルという最大の広さに宇宙船のドッキング場面を展示したソ連館、高圧エアドームのパビリオンに月の石やアポロ二号の実物模型などを展示したアメリカ館だった。

三三の国内展示館の多くは同業種（電力館、鉄鋼館、自動車館など）か系列（三井グループ館、住友児童館など）で、企業グループで参加したのが特徴。これは商業色の排除と大規模な展示を狙っていた。なにしろ主催者の日本万国博覧会協会の会長には前経団連会長の石坂泰三氏が就任し、通産省企業局が監督官庁と



▲高さ70メートルの「太陽の塔」は、万国博のシンボル。会期中、赤軍派の元旭川市職員（25）が1週間たてこもり、「パンパクをつぶせ」と演説して逮捕された。共同通信社

◎表紙 11月25日、東京・市谷の自衛隊バルコニーに立ち演説する三島由紀夫。この後、割腹。共同通信社

3兆3000億円の経済効果！ EXPO'70が日本を「大国」に押しあげた

あらゆる面で「特別博」をしのいだ「一般博」



EXPO'70を、後の三つの博覧会と比較してみよう。開催期間はどれも半年間である。

沖縄県本部半島を会場にした「沖縄海洋博」（1975-76年、参加36カ国、3国際機関、1自治体）は、入場者数348万人で、目標の445万人を大きく下回った。73年の石油ショック不況で規模を縮小せざるをえなくなり、離島という地理的条件が重なった結果だった。

茨城県つくば市で開催された「科学万国博」（1985年、参加48カ国、37国際機関）は、目標2000万人をわずかに上回る2033万人だった。

大阪の鶴見緑地で行われた「花博」（1990年、参加83カ国、55国際機関）は目標2000万人を大きく上回る2312万人が入場した。バブル経済の真っただ中という好条件が客足を伸ばしたようだ。

このうち黒字だったのは、花博（10億円）だけ。大阪万国博の入場者数6421万人（165億円の黒字決算）は、いまだに国内イベントの最高記録である。開催年の70年がまだ高度経済成長期だったせいもあるが、大阪万国博があらゆる分野の展示を行う「一般博」で、ほかが海、科学、花だけに限定した「特別博」だったのも、低迷の理由だろう。

会場内での食事や買い物に、一人平均七一六円を使った。収支は一六五億円の黒字決算。関連道路や鉄道が整備され、輸送機関、ホテル産業、外食産業が恩恵を受け、その経済効果を三和銀行調査部は三兆三〇〇億円と推計した。

入場者数や採算という面では大成功だったわけだが、アメリカ政府代表のチャールズ氏は、「万国博で産業技術の歩みをうたいあげる時代はすぎたのではないか。人類の交歓と相互理解を」と反省点を指摘している。

しかし、日本はその後も巨大なイベントを開催して公共投資を集中し、地域開発をはかるといふやり方を変えなかった。一九七五年の「沖縄国際海洋博覧会」、八五年の「国際科学技術博覧会」、九〇年の「国際花と緑の博覧会」と次々に開催し、地域開発と経済成長に邁進しようとしたのである。

その後、九〇年代に入ってバブル経済が崩壊、九五年に予定していた「世界都市博」（東京）は、中止された。奇しくもその推進に執念を燃やしていたのは、七〇年の万国博で事務総長をつとめていた鈴木俊一・前東京都知事だった。今や巨大イベントによる経済活性化策は、大きな曲がり角を迎えている。



▲入場者の大半は、全国の農協、町内会などの団体客。入場したら、まずお祭り広場を背景に記念写真を撮り、それから見物をはじめるのがお定まりのコースだった。毎日新聞

「残酷博」の異名までも

エスコートガイドだった大森昭子さん（当時二五）は、海外からの賓客の案内や通訳をつとめる「万国博の華」だった。開会式では入場行進の先頭を歩いた。

「毎日のようにお祭り広場で、参加国のナショナルデイの記念イベントが開かれ、その国の元首や政府高官の方が見えになって、本当にインターナショナルな祭典でした」

ちなみに、会場を彩るホステスも、世界の祭典にふさわしく参加国から派遣された女性ら三〇〇〇人。万国博協会は、彼女たちのために特別な規則を作った。①自分の住所は教えない②金品はもらわない③仕事で知り合った異性との個人的交際は許さない……。

大森さんは、その三年前に開かれたモントリオール万国博で働いた経験もあった。

「モントリオールに比べると、日本は農協などの団体が多く、集団行動でせわしなかったようです。ホステスさんたちと会話をを楽しむ余裕があれば楽しめたのに」と当時を振り返る。

しかし、そんな団体客のおかげで会場は連日の大盛況だった。パビリオンには長蛇の列が並び、観客の場内滞在時間は平均六時間半。うちパビリオンの中にいるのは二時間半で、残り四時間は順番待ちや移動に費やされた。会期終了間際には観客が殺到、会場が混乱して「残酷博」の異名も生まれた。毎日二五〇人の迷子、迷大人を出し、四八〇人がめまいや腹痛の手当てを受け、二九〇個の忘れ物、落とし物をし、二〇〇トのゴミが出たという。

一八三日の期間中の入場者数は、六四二万人。目標の五〇〇万人を大きく上回る結果となった。入場者は、大人八〇〇円、小人四〇〇円の入場料を払い、待ちや移動に費やされた。会期終了間際には観客が殺到、会場が混乱して「残酷博」の異名も生まれた。毎日二五〇人の迷子、迷大人を出し、四八〇人がめまいや腹痛の手当てを受け、二九〇個の忘れ物、落とし物をし、二〇〇トのゴミが出たという。



▶終電に乗り遅れ、こみ袋の中で一夜を明かす家族連れ。



▲有人宇宙船ボストークをはじめとして、ソ連館の展示物は、質量ともに他を圧倒した。毎日新聞



▲昭和45年11月25日正午すぎ、三島由紀夫(右)は、森田必勝とともに約800人の自衛隊員を前に、バルコニーから要求書の幕を掲げ、「決起」を呼びかけた。毎日新聞社

市ヶ谷駐屯地、衝撃の十一月二十五日！ 三島由紀夫「割腹自殺」の動機と結末

昭和四十五年十一月五日、東京・市ヶ谷の陸上自衛隊東部方面総監・益田兼利陸将の面前で、作家の三島由紀夫(四五)が割腹自殺した。何が彼を駆り立てたのか。激昂した三島らの思いとは裏腹に、自衛隊の拳動はいたって冷淡だった。

決起を叫ぶ「檄」に 野次と罵声の嵐が

初冬の陽射しの中を一台の車が、東京・市ヶ谷の陸上自衛隊駐屯地にすべりこんだ。東部方面総監部正面玄関に立ったのは、作家の三島由紀夫と「楯の会」(三島が結成した民間軍組織)会員四人。全員が同会の軍服をまとうていた。

三島たちは、総監室に招き入れられ、益田兼利総監と面談すること、五分。話

題が三島のさげてきた日本刀におよぶと、「楯の会」のメンバーが不意をついて益田総監に襲いかかり、総監は両手両足を椅子に縛りつけられた。

異状を知った自衛隊側は、総監を救出すべく二度、突入を試みるが、失敗(計七人が負傷)。説得はむずかしいと判断し、駐屯地にいる全自衛官を総監部前に集合させ、三島の演説、檄文を散布するなどの要求を了承する。

正午のサイレンが駐屯地に鳴り響き、三島が「楯の会」学生長・森田必勝(二五)とバルコニーに現れた。三島は握り拳を振り上げ、憲法改正による自衛隊の国軍化と天皇擁護を訴え、絶叫する。

「自衛隊が二〇年間、血と涙で待った憲法改正ってものの機会はないんだ。……自衛隊にとって建軍の本義とはなんだ。

日本を守ること。……お前ら聞けエ、聞けエ！……命をかけて諸君に訴えているんだぞ……」

演説が始まると、バルコニー前に集まった約八〇〇名の自衛隊員からは野次と罵声が飛び交い、上空を旋回する何機もの報道機関のヘリコプターの爆音で、三島の声は断片しか聞き取れない。

「諸君の中には一人でも俺と一緒に起つ奴はいないのか！……一人もいないんだな。よし！……見極めがついた……」

三島は総監室に戻ると、上半身裸になり、短刀で割腹。「介錯するな」と益田が叫んだが、左後ろに立った森田が日本刀を振り下ろした。その森田も自決。残った三人は投降した。

あつけない幕切れであった。翌二六日

劇的な死と引き換えに 何を残そうとしたのか

三島由紀夫は大正一四年一月、農林官僚・平岡梓の長男として生まれた。本名は平岡公威。昭和三年、東京大学法学部を卒業後、大蔵省に入省したが、翌年には「仮面の告白」で作家としての地位を確立。その後、次々に秀作を発表し、四二年には有力なノーベル文学賞候補と

の新聞各紙の社説も、「三島由紀夫の絶望と陶酔」(朝日)、「三島事件は「狂気の暴走」」(毎日)、「三島事件」のもつ反社会性」(読売)、「三島由紀夫の暴力」を排す(日経)、「常軌を逸した三島の所業」(サンケイ)と、冷静に受けとめた。

市ヶ谷駐屯地、衝突の二月十五日、三島由紀夫、剖腹自殺の動機と経緯



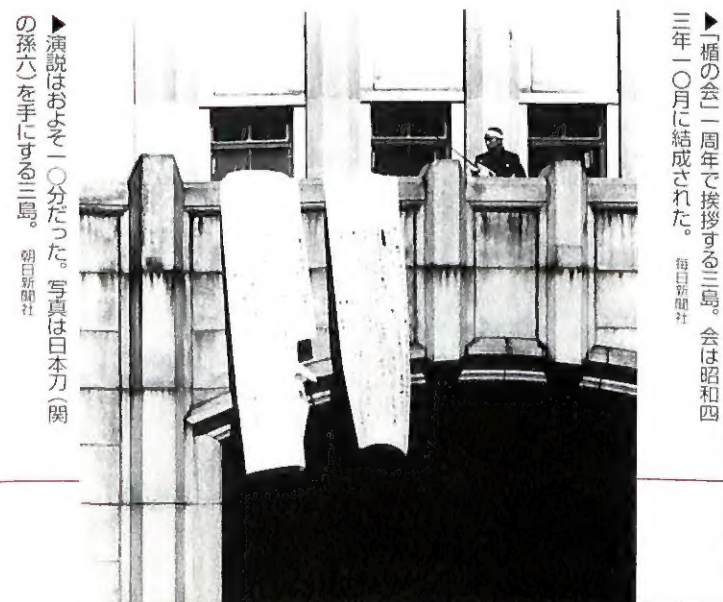
▲三島は演説後、総監室に戻り益田総監を前にして、森田の介錯で剖腹自殺した。写真は自殺直後の総監室。毎日新聞社

なった。その間、三島文学は政治との接点を求める方向に傾斜。この「決起」の二年前に発表された「文化防衛論」（中央公論）七月号で「昭和元禄には、華美な風俗だけが跋扈している。情念は潤れ、強靱なり。アリズムは地を払い、詩の深化は顧みられない」と心情を吐露している。

時を同じくして、三島は、民間防衛組織「楯の会」を結成、「憂国の士」としての道を進んだ。拳に出たのは、遺稿となった「豊饒の海」第四部「天人五衰」（新潮）に連載）が家人から出版社に手渡された日であった。

三島の真意はどこにあったのか。文芸批評家の加藤弘一氏は「三島の行動は政治的成算を度外視した文学的自殺だと思えます。三島は自分と楯の会を二・二六事件の青年将校になぞらえ、天皇による文化防衛を唱えましたが、現実の昭和天皇は神がかりが嫌いで、二・二六事件では毅然として鎮圧を命じました。自衛隊がサラリーマン化していて、クーデターが不可能なことも交流の中でよくわかっていたはず。

三島は劇的な死と引き換えに、現実性のない理念に生命を与え、後世に残したかったのではないのでしょうか」と語る。あれから四半世紀、彼の死はまだまだ「政治」にも、「文学」にも還元できない「謎」の部分を持ち続けている。



▲「楯の会」周年で挨拶する三島。会は昭和四三年一月に結成された。毎日新聞社

▲演説はおよそ一分だった。写真は日本刀関の孫八を手にする三島。毎日新聞社

女たちの肖像

稲葉真弓

政変を逃れてデビスカルノのハリ亡命生活

日本名の根本七保子（もとしほこ）を知らなくても、「デビ夫人」と言えはたいの人の人が「ああ」とうなずく。元インドネシア大統領スカルノの第三夫人だったのがこの人である。昭和四〇年九月、スカルノが腹心のスハルトに政権を奪われて幽閉され、四五年



▲インドネシアの「実力者」だったデビ夫人。

彼女がインドネシア独立の父、スカルノに見せられたのは昭和三四年のこと。戦後一四年を経たといっても日本はまだ貧しく、日本女性が外国のトップレディになることなど夢のまた夢であった。東京・麻布の建築業者の娘として生まれた根本七保子は当時一九歳、赤坂のナイトクラブでホステスをしていたが、スカルノの招きでインドネシアに渡り、昭和三八年、第三夫人になった。当時、この結婚とインドネシア賠償貿易問題とを結びつけるとかくの風聞もあったが、そうした憶測をかたわらに、デビ夫人は、ある時は大統領のアドバイザーとして日本企業との橋渡しに奔走、ある時は日伊文化交流の折衝役をつとめた。

しかし歴史の奔流は、彼女を一人の女に変える。

大統領の死後、一粒種の娘カリナを連れてバリで暮らすようになったデビ夫人は、スペインの銀行家や独身公爵と婚約したがいずれも解消。この後も艶聞を繰り返して、「結婚と恋は別ですもの。私はいつも恋をしていたんです」と人々を煙に巻いた。

三四歳の時には、世界的に著名なカメラマン、デビッド・ハミルトン撮影の写真展を東京で開き、セミヌードを披露。「美の探求」としては、衣装をつけるのもつけないのも変わりありません」という言葉がマスコミをにぎわした。

に死去すると、このトップレディは政変を逃れてバリに亡命、華々しく社交界にデビューを飾った。以来、元大統領夫人として、恋多き女性として、日本の週刊誌に華やかな話題を提供することになるのだが、この人ほどマスコミで雄弁に語られ、格好の標的となったファーストレディはいないのでないだろうか。

昭和五八年、娘に祖国を教えたいと永住を決定してインドネシアに帰国。ジャカルタ市内に豪邸を建て、企業関係のコンサルト、実業家として活躍するがたわら、元大統領夫人として、社交界に華をそえる日々を送っている。

勝者・敗者

阿部珠樹

「逆転の貴公子」大場政夫の二二二ラウンド



▲13ラウンド、勝利の瞬間の大場。

この年は日本ボクシング界の世代交代の年だった。一月、史上初めて二階級制覇をはたしたファイティング原田が引退、あとを追うようにライバルだった海老原博幸もリングを去る。J・ウェルター級チャンピオンだった藤猛がリングを去ったのもこの年だった。

代わって世界の表舞台に飛び出したのが若い大場政夫である。昭和四一年にデビューした大場は、歯切れのいいファイイトと江戸っ子らしい負けん気の強さで次々に強敵を倒し、ランキングを駆け上る。そして迎えたのが、この年一〇月二二日のベルク

レック・チャルバンチャイとのフライ級タイトルマッチだった。

前日に二一歳になったばかりの若い挑戦者・大場は必殺のハードパンチこそないものの、常に攻勢をとり、勝機と見るや何かに取りつかれたようにラッシュするファイイトが身だった。この試合でも、一ラウンドから早くも攻勢に出てポイントを取る。五ラウンドにはチャンピオンの目尻に大きな傷を負わせる連打。これでチャンピオンは一気に戦意を失い、受け身にまわる。そして一三ラウンド、大場は攻めに攻めて三度のダウンを奪い、KO勝ち。ついにチャンピオンベルトを手に入れた。

下町の貧しい家庭に生まれた大場は、ハングリー精神の権化のようなボクサーだった。猛烈なファイイトには満たされない生活への激しい渇きが反映していた。

チャンピオンになつてからの大場は、前半ダウンを喫しても、後半、素晴らしいファイイトで盛り返し、逆転勝ちすることから、「逆転の貴公子」などと呼ばれた。その最高の試合は、昭和四八年一月のチャチャイ・チオノイ戦。初回に足を捻挫しながら、驚異的な意志で立ち直り、KO勝ちを収めた奇跡のような試合だった。

それからわずかに三日後、手に入れたばかりの愛車、シボレー・コルベットを運転中、首都高速で大型トラックに激突して死去。激しく疾走し続けた三年の生涯だった。

1970

フォト＋日録で再現する365日

日米安全保障条約の自動延長とともに、学園紛争は急速に衰亡に向かった。高度成長ニッポンは東京五輪に次ぐイベント、アジア初の万国博に酔ったが、その一方で、水俣病に苦しむ人々に象徴される公害問題が、未解決のまま積み残された。

◀「あまりにも低すぎる」(5月27日)水俣病補償交渉で一任派が死亡者最高400万円などの上積み案を提案したため、不満の声が充満した。写真は水俣市のチッソ正門前の抗議集会で挨拶する田吉フミ市民会議員。田吉氏



日録 20世紀1970

1月



▲末広亭、100年の歴史に幕(1月20日)東京都内で唯一、昔ながらの畳席の寄席として親しまれていた日本橋人形町の末広亭が「初春特別興行」を最後に閉場した。千秋楽は満員礼止めの盛況だった。

▲血のメーデー事件に判決(1月28日)昭和27年の事件に対し東京地裁は騒乱罪を適用、214被告のうち93人に有罪判決。しかし、うち84被告は47年の控訴審で騒乱罪の成立が否定され、無罪になった。



◀飛行服の中曽根防衛庁長官(1月21日)長官は、北海道の自衛隊基地視察のため、写真のようなスタイルでジェット練習機に乗りこみ、埼玉県の入間基地を出発した。

▲輪島が初土俵で幕下優勝(1月23日)幕下付出しになったこの場所、期待どおり元学生横綱の強さを発揮し、7戦全勝。写真右は支度部屋で祝いの握手をする花籠親方。



▶餓死寸前のビアフラの子ら(1月15日)ビアフラの臨時首都オウエリが陥落、ナイジェリア内戦は終結したが、200万人の餓死者を出し、なお難民に飢えと疫病が広がった。

▼広島県大久野島で旧陸軍の毒ガスを大量に発見(1月13日)厚生省が工場跡を本格的に調査した。写真は壕の中の毒ガス入り「赤筒」を調べる自衛隊員。600本の中身はどれも腐敗、毒性は消えていた。



WWP



共同通信社

昭和45年1月

- 1 本 ●日本道路交通情報センターが設立される。
- 2 金 ●日銀、BIS(国際決済銀行)に正式に再加盟。
- 3 土 ●宮城県で大白鳥を撃ったハントーを取り調べ。
- 4 日 ●帰省で混雑する東名高速で交通事故二九件。
- 5 月 ●公明党と創価学会による藤原弘達らの著作出版妨害事件で、公明党が関与否定の声明。
- 6 火 ●在日米海軍司令部、横須賀基地に働く日本人労働者五〇〇人の整理を通告する。
- 7 水 ●卒業記念に「毛沢東語録」を配った山口県の中学教員、政治的中立侵害として懲戒免職に。
- 8 木 ●日活、経営不振で本社社屋の売却を発表。
- 9 金 ●西武百貨店、関西進出を発表。
- 10 土 ●津久見市の探石場で石灰石が崩落、九人死亡。
- 11 日 ●兵庫県被爆者連絡協議会、西宮市の神社境内で、コムで作った胎内被爆児の模型を「十日えびす」の見せ物にした興業社に抗議。
- 12 月 ●厚生省、チクロ入り食品の回収期限を延期。中教審、大学制度改革試案を中間報告。
- 13 火 ●厚生省、広島県大久野島のガス工場跡を調査。
- 14 水 ●第三次佐藤内閣成立。主要閣僚は留任。
- 15 木 ●安保条約継続を決議した千葉県四街道町、成人式に軍歌のレコード「砲兵の歌」を配布。
- 16 金 ●東京都、大井競馬場の開催日数削減を申請。
- 17 土 ●フジテレビでクイズの賞品にマンション登場。
- 18 日 ●最近の子どもは甘い菓子を敬遠気味と新聞に。
- 19 月 ●富士市長選で公害反対の革新系候補が当選。
- 20 火 ●東京国税局、草月会を脱税容疑で強制調査。
- 21 水 ●北海道、東北でM6・8の地震。一人死亡。
- 22 木 ●男八九歳、女七四歳と厚生省平均寿命を発表。
- 23 金 ●札幌高裁、長沼ナキ基地訴訟で、農民の異議申し立てを却下(27日、特別抗告を断念)。
- 24 土 ●ソ連のナホト力新港共同建設に日ソが調印。
- 25 日 ●チクロなどの家庭用検出セットが発売される。
- 26 月 ●総評など五団体、新潟水俣病共闘会議結成。
- 27 火 ●銚子沖で旧陸軍の毒ガス弾が爆発、漁民火傷。加藤勝アイカ、北壁の冬季登頂に成功。
- 28 水 ●東京地裁、メーデー事件(27年)に一部騒乱罪の成立を認め、九三人に有罪の判決。
- 29 木 ●八丈島南方五、先の明神礁が爆発する。
- 30 金 ●赤、青電話の市内一話三分制、都心で実施。
- 31 土 ●強い低気圧で全国に被害。死者、不明二五人。



英仲三（右も）



▲▲沖縄から集団就職(3月9日)この年の沖縄から本土への就職者は1万934人。スーパー、百貨店、家電メーカーなどから引っ張りだこだった。写真は晴海埠頭に着いた沖縄の少女たち(左)と出迎えの職安や企業の担当者。



毎日新聞社

▲神戸港で貨物船が暴走(3月9日)スウェーデン貨物船「ヒラド号」(1万650トン)が係留場所を変えようとして、岸壁に衝突、10メートルも船首が食いこんだ。この事故で水道管が破裂、付近一帯が断水した。

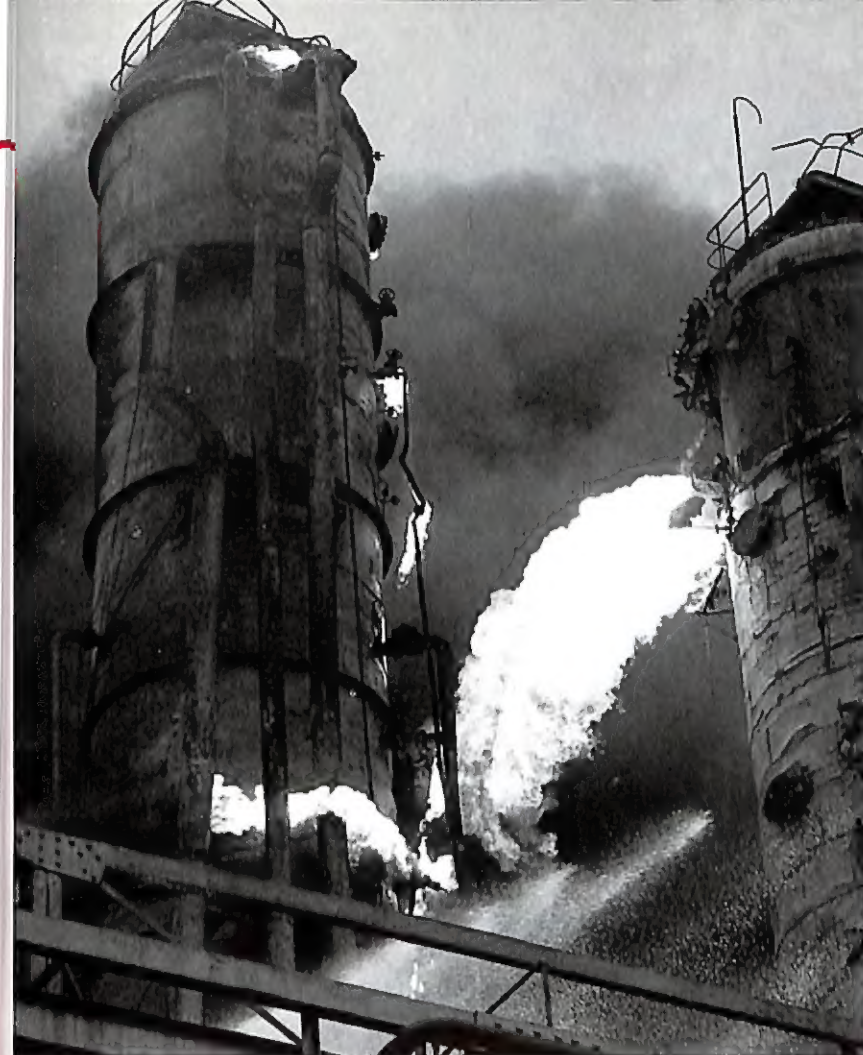
▼カンボジアで親米右派政権誕生(3月18日)訪ソ中の国家元首シアヌークを議会が解任、首相兼国防相ロン・ノル(写真)が実権を握った。シアヌークは、共産勢力とカンブチア民族統一戦線を結成、反撃を続けた。



毎日新聞社

▲公明党の言論出版妨害事件(3月17日)藤原弘達「創価学会を斬る」などの著作に出版妨害をしたと、野党各党有志議員が真相究明集会。写真は説明する藤原弘達氏。

▼松村訪中使節団出発(3月20日)自民党の松村謙三、藤山愛一郎ら11人の訪中議員団が羽田空港を出発。周恩来首相らと会い、日中関係改善をめざして意見交換した。

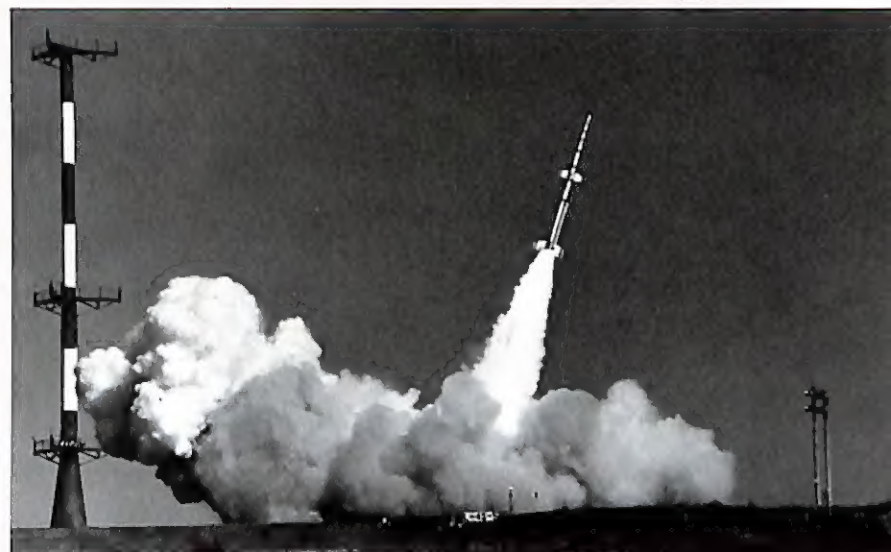


共同通信社

▼日航機から落ちた少年(2月22日)少年は14歳。世界旅行を夢見てシドニー国際空港で日航 DC 8型機の手輪格納部に隠れ、離陸直後に落ちて失敗した。



WPP

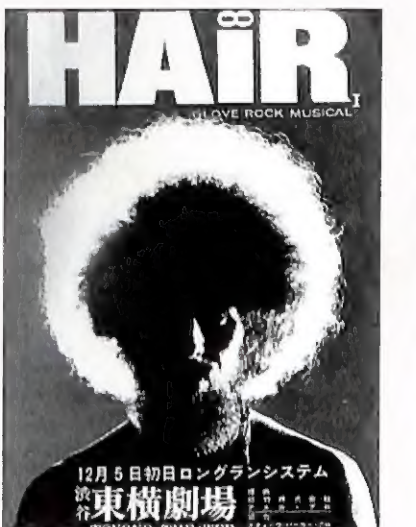


文部省宇宙科学研究所提供

▲昭和石油川崎製油所であわの火災(2月26日)原油精製装置の熱油ポンプ室付近から出火、周囲には原油タンク群があり、あわと思われたが、3時間後に鎮火した。

▼三里塚で第1次強制測量(2月19日)新東京国際空港公園が、成田空港建設予定地の強制立ち入り調査を実施。写真は反対派の団結小屋前で杭を打ちこむ公園職員。

▲初の国産人工衛星「おおすみ」(2月11日)東大宇宙航空研究所が鹿児島県内之浦町で発射。周期2時間24分の長円軌道に乗った。ソ、米、仏に次ぐ4番目の自力衛星。



▲人気ロック・ミュージカル「ヘアー」のメンバー、大麻で逮捕(2月26日)主演の寺田稔らが回し飲みしていたというもの。写真は前年12月、初演の東京公演のポスター。

昭和45年2月

- 1 日 ●チクロ入り粉末ジュースなど、販売禁止に。
- 2 日 ●東京商工会議所、「エコノミック・アマラル」など海外からの日本への懸念対策を協議。
- 3 日 ●政府、核拡散防止条約の調印を決定する。
- 4 日 ●TBS、「時間ですよ」の放映を開始。
- 5 日 ●都教委、授業拒否の高校教員三人を懲戒免職。
- 6 日 ●奈良県吉野の修験道場大峰山寺、開山以来一三〇年続いた女人禁制の区域を大幅に縮小。
- 7 日 ●米政府、沖縄返還要求国民大会参加の社会党・総評代表八一人の沖縄渡航を不許可。
- 8 日 ●時間外保険診療拒否の動き広まる、と新聞に。
- 9 日 ●静岡県豊田町、遺跡で出火。復元家屋一棟を全焼。
- 10 日 ●野坂昭如ら、創価学会系出版物への執筆拒否。厚生省、LSDを麻薬に指定。
- 11 日 ●東洋工業、新車の開発期間短縮のため、自動設計コンピュータシステムを初めて確立。
- 12 日 ●初代国産人工衛星「おおすみ」打ち上げ成功。いわき市沖で漁船と貨物船衝突。一〇人不明。
- 13 日 ●岐阜県白川村で積雪のため、合掌造りの家屋が倒壊。就寝中の一家四人が死亡する。
- 14 日 ●金「ほりばあ丸」事件(44年1月)の遺族、ジャパンライン社などに損害賠償を請求する。
- 15 日 ●大阪府、富田駅停車中の電車で手製の爆弾爆発。
- 16 日 ●国鉄、財政再建一〇ヵ年計画を運輸相に提出。
- 17 日 ●茨城県の原研東海研究所でフルトニウム漏れ。
- 18 日 ●通産省、カドミウム汚染を起こした東邦亜鉛安中製錬所の拡張工事認可を取り消す。
- 19 日 ●木原爆の記録映画「ヒロシマナガサキ」九四五年八月、ニューヨークで初めて公開。
- 20 日 ●金閣閣議、総合農政の基本方針を了承する。
- 21 日 ●土東京湾係留中の第五福竜丸の刻銘式、挙行。
- 22 日 ●日富山地裁、イタイイタイ病訴訟の原告三九四人に対する訴訟救済申し立てを認める。
- 23 日 ●香港で流行の家禽伝染病、口蹄病防疫のため、羽田・大阪空港で旅客の靴底消毒などを開始。
- 24 日 ●大蔵省、持ち出し外貨の引き上げを決定。
- 25 日 ●水自治労、自治体への官僚天下りの実態を公表。
- 26 日 ●木ミュージカル「ヘアー」のメンバーが大麻吸飲で逮捕され、大阪公演は中止になる。
- 27 日 ●金日本テレビ、低俗と批判されていた「コント55号の野球拳」の打ち切りを決定する。
- 28 日 ●土日本精神神経学会が会員に、精神病院での患者虐待に注意するよう警告した、と新聞に。

昭和45年3月

- 1 日 ●玉川通りに都内初のバス優先車線を設置する。
- 2 日 ●市川梁五郎が日本人初の主役をつとめる「ラマンチャの男」がニューヨークで開幕する。
- 3 日 ●火日米、沖縄復帰準備委員設置の交換公文に署名。東京・浜松町に世界貿易センタービル開業。●女性誌「L'Espresso」平凡出版、創刊。
- 4 日 ●水福岡地裁、博多駅事件(43年1月)を収録したNHKなどの放映フィルムを強制差し押え。
- 5 日 ●木日本船長協会、相次ぐ船長の殉職に、船員法の最後退給義務案項を改正するよう提起する。
- 6 日 ●金国公立大で三七六五人が卒業延期、と文部省。
- 7 日 ●土新潟市、四歳の女児を胎児性水俣病と認定。
- 8 日 ●青森県で減反希望農家相次ぎ割当目標を突破。
- 9 日 ●月東京で公害問題国際シンポジウムを開催する。
- 10 日 ●火神近市子、プライバシー侵害で吉田喜重監督「エロス」虐殺」の上訴禁止仮処分を申請。
- 11 日 ●水大口野ラジカル総領事を反政府組織が誘拐。ボーイング747ジャンボ一機、羽田到着。
- 12 日 ●木国鉄、全国四二線区の合理化案をまとめる。
- 13 日 ●金神戸地裁、反戦運動での逮捕による解雇は不当として、元会社員の復職を命じる。
- 14 日 ●土大阪、千里で日本万国博覧会の開会式を挙行。
- 15 日 ●日警視庁、塩見孝也共産同赤軍派議長らを選捕。
- 16 日 ●小笠原諸島の高校で復帰44年最初の卒業式。
- 17 日 ●火国会でフクロ球の「黒い霧」を追及する公聴会。
- 18 日 ●水二月五日以来、スクリーン破壊で氷に閉じこめられていた南極観測船「ふじ」が自力脱出。
- 19 日 ●木厚生省の西表島学術調査が終わる。
- 20 日 ●金国鉄、生産性向上運動(マル生運動)を開始。厚生省、スモン患者数は二六九人と発表。
- 21 日 ●土万博見たさに家出の帯広の小学生大阪で保護。
- 22 日 ●中教審が小学校の五歳就学見送り、と新聞に。
- 23 日 ●月江田三郎社会党書記長、新ビジョン提出。
- 24 日 ●火カネミ油症でカネミ倉庫社長を福岡地検起訴。●石牟礼道子、水俣病を描いた「苦界浄土」による第一回大宅壮一賞受賞を辞退する。
- 25 日 ●水石牟礼道子、水俣病を描いた「苦界浄土」による第一回大宅壮一賞受賞を辞退する。
- 26 日 ●木農林省、鵜飼開権を川崎市などへ配分。
- 27 日 ●金一〇年で家賃五・四倍、と東京の物価調査。
- 28 日 ●土日航、シベリア経由欧州線の自主運航を開始。
- 29 日 ●日渋谷で死後一〇日の独居老人が発見される。
- 30 日 ●山口県豊浦町の山陰本線踏切で普通列車と三キヤードが衝突、三五人が死傷する。
- 31 日 ●火赤軍派、日航機「よと号」をハイジャック。●八幡、富士製鉄所が合併し新日本製鉄発足。



証言・あの日この日
武田百合子

10月19日(月) 〈観光バスが追い越してゆくとき、窓から男が首を出してゲロを吐いている。私は窓を閉めていたので、ひっかからなかった。バスはかなりのスピードで走り続け、男はまだ首を出して吐き続け、その大量のゲロは風で散乱して、低い乗用車の屋根にかかったり窓硝子にはりついたりしている。別のマイクロバスには、男の団体客が満員に詰めこまれていて、窓から男の手だけがでては、缶ビールの空き缶や紙袋やみかんの皮を投げすててゆく。……高速道路だから危ない。〉(武田百合子『富士日記』)

「高速道路」というのは中央高速のことだ。東京オリンピックにあわせて首都高を突貫的に作ったように、万博にあい前後して、東京、大阪からハイウェイが各地に伸びていく。しかしハードをいくら整備しても、人間というソフトはなかなかそれに追いつかない。(坪内祐三)



▲シージャック事件(5月12日)前日、警官を刺傷させて逃走中の川藤展久(20)が広島港に停泊中の観光船「ぶりんす丸」をライフルで脅して強奪。高松港で乗客解放後、13日、広島港に戻ったところを警官隊にライフル銃で狙撃され、1時間半後死亡した。

▼日本隊、エベレスト初登頂(5月11日)2月にカトマンズを出発、苦闘のすえ、日本山岳会隊(隊長・松方三郎)の松浦輝夫(写真)と植村直己が快挙をなしとげた。



毎日新聞社



毎日新聞社



▲プロ野球八百長事件(5月4日)プロ野球コミッショナー委員会が、西鉄の疑惑選手を喚問。写真はその後記者会見にのぞむ選手たち。うち益田・池永・与田の3人は永久追放となった。

▶米州兵、反戦デモの学生を射殺(5月4日)オハイオ州の大学で開かれていた米軍のカンボジア侵攻などに反対する集会で、学生4人が死亡。全米の反戦デモは一層激しさを増した。



▲米軍、カンボジアに侵攻(5月1日)「共産勢力を駆逐し、米・南ベトナム両軍の安全を守るため」と発表。戦線はインドシナ全域に拡大した。写真は状況説明をするニクソン大統領。



朝日新聞社



▲国鉄・私鉄統一ストで朝の通勤大混雑(4月30日)全国1100万人の足に影響、新宿駅ホームでは、写真のように電車の窓からホームに飛び降りるQ1の姿も見られた。

▶社会党大会に機動隊が出動(4月20日)「帝国主義社民粉砕」を叫ぶヘルメット姿の反戦系グループが会場入り口を占拠。第33回党大会は機動隊出動でやっと開催できた。

▲大阪の天六でガス爆発(4月8日)地下鉄天六駅建設中の工事現場で漏れていた都市ガスに引火、爆発した。夕刻のラッシュ時だったため死者79人、重軽傷者406人、31戸が全半焼する大惨事となった。



▲ビートルズ解散(4月10日)ポール・マッカートニーの脱退で、世界中の若者たちを熱狂させてきたロックグループの解散が決まった。写真は最後のレコード「レット・イット・ビー」のジャケット。

▶株価大暴落(4月30日)下げ足を早めていた東証株価は、米軍のカンボジア直接介入のニュースをきっかけに急落。201円1銭安で「スターリン暴落」以来の下げ幅を記録した。



▲中国が世界で5番目の人工衛星打ち上げ国に(4月24日)ソ・米・仏・日に次ぎ、重量173キログラム、周期114分。写真は天安門前広場で成功を祝う北京市民。米ソが主導する世界の核戦路への影響が心配された。

新華社・中国通信

- 昭和45年5月
- 1(金) 沖繩・北方対策庁が発足する。
 - 2(土) 石田和正最高裁判官、軍国主義者・無政府主義者・共産主義者は裁判官に不適格、と発言。
 - 3(日) 池田大作創価学会会長、公明党との分離表明。
 - 4(月) 全国の「がきっ子」四八三万人と厚生省発表。
 - 5(火) 共産党「日本のこえ」派に接近のソ連を非難。
 - 6(水) 著作権法改正公布(死後五〇年に延長)。
 - 7(木) 沖縄住民の国政参加特別措置法を公布する。
 - 8(金) 潜水調査船「しんかい」、相模湾で初観測。
 - 9(土) 共産同赤軍派の最高幹部、重信房子を逮捕。東北大グループ、超音波とビデオによる心臓断面の画像記録装置を学会で発表。
 - 10(日) 父子家庭は四万七〇〇〇世帯、と実態調査。
 - 11(月) 日本山岳会エベレスト登山隊の植村直己と松浦輝夫、エベレストに初登頂(世界六番目)。
 - 12(火) 窃盗で逃走中に警官を刺した男、広島港で観光船乗っ取り(乗客解放、翌日射殺)。
 - 13(水) 婦人労働協が毒性農薬を自主廃棄、と新聞に。
 - 14(木) 厚生省、動物性食品の残留農薬調査を指示。
 - 15(金) 四月の卸売り物価は前年一月以来連続と日銀。
 - 16(土) 平連系の在日米国人ら約二二〇〇人、米大使館に米軍のカンボジア侵攻抗議のデモ。
 - 17(日) 日本自然保護協会と日本野鳥の会が都民集会。
 - 18(月) 全国新幹線整備法公布(6月18日施行)。
 - 19(火) 筑波研究学園都市建設法を公布。
 - 20(水) 黒部市をカドミウム汚染の要観察地域に指定。
 - 21(木) シュネーベリ議定書公布、南カス細菌兵器禁止。
 - 22(金) 警察庁、鑑識強化でコンピュータ導入を発表。
 - 23(土) 愛知、一外相、関係閣僚会議で五〇年までにGNPの一割を海外援助にあてると表明。
 - 24(日) 民放のテレビCMは、放送基準を一日に二三五分超過と朝日新聞調査。
 - 25(月) 八百長事件で西鉄の池永三投手永久追放に。
 - 26(火) 朝鮮総連、朝鮮高校生への暴行事件に抗議声明。
 - 27(水) 日本初の「国立フィルムセンター」が開館。
 - 28(木) 厚生省、栄養基準発表。一五〇沿線が目撃。
 - 29(金) いわき市の「黒炭」被害に会社側賠償で合意。
 - 30(土) 沖縄県志村市で女子高生が米兵に刺され重傷。
 - 31(日) ベル北部でM7.5の地震。死者七万余人。

- 昭和45年4月
- 1(水) 東京都公害防止条例・同条例施行規則が発効。
 - 2(木) 法務省、反戦運動参加のため送金停止された南ベトナム留學生の在留延長認可を決定。第一回全国家婦人バレーボール大会開幕。
 - 3(金) 山口県、東三取り犯、人質解放後、平塚へ。
 - 4(土) 厚生省、水銀殺菌剤配合の石鹼回収を指示。
 - 5(日) 安保拒否百人委員会、数寄屋橋で座りこみ。
 - 6(月) 岩手県、宮古湾の鰻からカドミウム、と報告。
 - 7(火) 古米を味噌・醤油、と食糧庁長官が発言。
 - 8(水) 大阪市北区の地下鉄工事現場でガス爆発。
 - 9(木) 米軍接収の戦争記録画一五三点が返還され、東京国立近代美術館に到着する。
 - 10(金) 日本未来学会、国際未来学会を京都で開催。
 - 11(土) 上野など三駅で二〇日間に家出七六五人保護。
 - 12(日) ウ・タント国連事務総長、万博のため来日。
 - 13(月) 鶴岡虎三、京都府知事に当選(全国初の六選)。
 - 14(火) 世界初の電算機搭載の大型タンカー「星光丸」が、石川島播磨重工業で進水する。
 - 15(水) 都知事、四七年度までに都営線増設と通知。
 - 16(木) 若井章総評事務局長にレーニン平和賞と発表。
 - 17(金) 日立製作所、LSI(大規模集積回路)を開発。
 - 18(土) 法務省、長沼ナイキ訴訟担当の福島重雄裁判長の急遽申し立てを札幌地裁にする。
 - 19(日) 中国首相、対中国貿易の四条件を日本に提示。
 - 20(月) 日本自動車ユーザユニオンが発足する。
 - 21(火) 厚生省、BHCによる牛乳汚染で汚染飼料の使用禁止など汚染対策を農林省に要求する。
 - 22(水) 第一銀行が業務を「電車」中心に変更と新聞に。
 - 23(木) 国税庁、高額所得者を発表。地主が上位独占。時化のためアリウシヤン列島の沖合で小樽市の漁船が沈没。一八人が行方不明になる。
 - 24(金) 過疎地域対策緊急措置法を公布する。
 - 25(土) 東京電力、硫黄分を出さない世界初の液化天然ガス(LNG)の専焼発電を開始する。
 - 26(日) 電力の製造と使用の禁止運動を進める主婦ら、防毒マスクをつけ、都内をデモ行進。
 - 27(月) 自称赤軍派の男、万博の「太陽の塔」に籠城。
 - 28(火) 箱根で修学旅行中の小学生に落石、一人死亡。
 - 29(水) 日本農村医学、新しい農業中毒増加と発表。
 - 30(木) 公取委、干菜などで分譲地の誇大広告を摘発。
 - 31(金) 静岡県産のサツマイモから有機水銀を発見。



▲日韓を結ぶ「フェリー関釜」就航(6月19日)日本初の外洋国際カーフェリー(3800トン)が就航。下関から韓国釜山まで7時間、週3往復、旅客運賃は1等8640円、2等5040円だった。

▼ワールドカップでブラジル優勝(6月21日)サッカー世界選手権(ワールドカップ)決勝戦でイタリアを4対1で破り、通算3回目の優勝を挙げた。写真はカップを差し上げて喜ぶブレ。



朝日新聞社



▲東京の牛込柳町、排ガス公害で大型車締め出し(6月1日)付近住民の血液や尿から鉛が検出されたため、都も調査を始めた。これを機にガソリンは無鉛化に向かい、50年2月に規制が実施された。

▶日航ジャンボ1番機、羽田に到着(6月1日)アメリカ最大の航空機製造会社のひとつボーイング社から引き渡されたもので、747型、361人乗り。7月1日、東京一ホノルル線に初就航した。



日本航空提供



▲反安保集會に77万人が参加(6月23日)安保条約が自動延長となったこの日、全国各地でデモが行われた。写真は東京の八重洲通りでのべ平連によるフランス・デモ。

▲茨城県波崎沖にゴンドウクジラ出現(6月10日)地元の白魚漁の小型船団が沖合2キロに約100頭を発見、うち48頭を海岸に追いこみ、引き揚げた。40年ぶりの珍事だった。

朝日新聞社

20世紀博物館

自転車文化センター

東京・港区

脚力をスピードに変える技術と「遊び心」の結晶

自転車文化センターの展示室には六十数台の自転車が並んでいるが、中には本のイラストでしか見たことのなかった「自転車」もある。たとえば、一〇〇年以上も前のヨーロッパで、新しいモノ好きの男が粋がつてみせたという、前輪のばかでかい「自転車」だ。こういう珍しいものを目の前にすると、うまく乗れたとしても、高いサドルに飛び乗ってひょいひょいと進む曲芸師のように見えたり。

じゃなからうか、当時の、これも新しいモノ好きの女性たちに、内心あきれられ、舌を出されていたんじゃないか、などと想像をめぐらせてしまう。

しかし、今から見ればすいぶんアンバランスな乗り物でも、自在にコントロールできた時は、自分の感覚が無限に広がっていきうにさえ思えて、まことにエキサイティングな瞬間だったに違いない。

そんな喜びを可能にした、自転車製作の技術が、どんな流れの中から生まれたのかを推理するのも面白いし、このセンターには、その材料が豊富だ。

それにしても、自転車は身近すぎて気づきにくい、非常に「人間的な」技術の結晶である。動力も人間なら、スピードや方向などのコントロールも直接人間が行う。あだやよろそかにできない技術なのである。



撮影/平野美津子

▲戦後すぐ製作された「三菱十字号」。

▼昭和に入って活躍したサイドカー。長尺のものを運搬するのに重宝がられた。まさに日本ならではの実用車であった。



「零戦」を作っていた技術陣が、軍事産業から平和産業へと流れて、自転車を作り上げたのだ。素材も零戦とともに関わった。

「零戦」から「三菱十字号」へ

というところで、日本の自転車コーナーへ行くと、ありました、ありました。がっちりとしたスゴイやつが。その名も「三菱十字号」。昭和二年の製作で、作ったのは三菱重工・津工場。終戦直前まで、当時最高の技術的成果である戦闘機

「零戦」を作

●自転車文化センター
東京都港区赤坂一〇三
日本自転車会館三三館
電話三三三三三三三三
地下鉄銀座線有明駅下車、徒歩七分
開館時間二〇時～一六時
休館日土・日・祝日
入場料無料



▲ほかでは見ることができない珍しい歴史的自転車「並行車」。

ジュラルミンで、車体の鉄打ちだつて戦闘機そのまま。中心部のフレームが十字にクロスしているのが「十字号」の名がついたという、見る人を見ると、斬新でスマートなデザインだそう、自転車先進国で結構評判をとったという。さすが！なのだ。

普段、何気なく乗っている自転車の「人間の技術」の面白さや深さを知ると、がぜん自転車に愛着がわいてくる。一個の車輪を前後に並べて、スムーズに走る乗り物と、それを乗りこなす自分！何ともいえない至福の時と思えるではありませんか。



▲ミニカーまで国産車の時代 ミニカー市場でそれまで圧倒的に優位を占めていた外国製、なかでもイギリスの「マッチボックス」に対抗して、国産車主体のミニカーを玩具メーカーのトミーが開発し「トミカ」と名づけて販売、ヒットさせた。発売時は「コロナマークII」ハードトップ」など6種、各180円。その後も車種はふえ続け、今も人気のロングセラーとなっている。



◀缶コーヒーは世界初だった 万国博会上島珈琲(現・UCC上島珈琲)が自信を持って売り出した、世界初の缶コーヒー(80円)が大成功をおさめた。しかし、発売にこぎつけるまでが大変。コーヒーエキスを缶の中に長く入れておくと化学反応を起こしてしまうという難題を解決しなければならなかったからだ。これを新しいコーティング技術の開発でクリア、商品化に成功したのだ。



▲自由化との闘いから生まれたジュース 愛媛青果連の「ポンジュース」は、100パーセント天然果汁というふれこみで大いに販路を広げたが、オレンジ類の輸入自由化という脅威にさらされた柑橘類生産者が、競争に打ち勝とうと、先手を打って開発・販売した。当時の青果連のパンフには、「決起してこの戦列に加わり、善く闘う者のみが、国際競争力を備え……台風一過後、輝く太陽を仰ぐ栄光を与えられよう」という檄が飛ばされていた。現在は1リットル300円だが、当時の価格は不明。



◀「もう鹿を殺さなくてもいい」だって! 東レが開発したスエード調の新素材「エクセーナ」のデビューがこの年。秋のバリ・オートクチュール・コレクションで、サンローランやカルダンなど超一流のデザイナーたちに、ニューモッド素材として取り上げられた時である。天然素材の鹿皮に代わるものとして、顕微鏡的にも鹿皮とそっくりのエクセーナは、実に革新的な新素材だったのである。



▲いつも温かいごはんが食べられる 核家族化が進み、女性の社会進出もふえてきたこの時代に、家事の省力化をはかる家庭電化製品は大きな意味を持った。象印マホービンの「電子ジャー」もそのひとつ。いつでも温かいごはんが食べられるというメリットは大きく、1万円という高価格にもかかわらず、発売数ヶ月たって人気急上昇、翌年翌々年と連続してヒット商品にランクづけられた。温度の微妙なコントロールを実現した点でも特筆モノの商品である。



▼いつまでも使えそうな不思議なチューブ 当時、歯磨き市場で苦戦を強いられていたライオンが「エチケットライオン」に続く新開発商品として世に送り出したのが、この「ホワイト&ホワイト」だった。歯の汚れをとり、表面を磨き上げる効果を持つ95グラム入り120円のこの歯磨きは、清潔志向が生まれていた市場に大歓迎された。また容器のチューブ素材に、これも新開発の、折れ曲がらないラミネートを用いたことも、ユーザーを十分引きつけたのである。

モノ語り70 「電子ジャー」「トミカ」「缶コーヒー」 今も売れ筋のロングセラー商品



▲「日本万国博公式ガイドマップ」(200円)



▲「誰のために愛するか」(430円)



▲「冠婚葬祭入門」(330円)

●昭和45年のベストセラー

- 1位 「日本万国博公式ガイドマップ」(講談社編/日本万国博覧会協会)
- 2位 「日本万国博公式ガイド」(電通編/日本万国博覧会協会)
- 3位 「冠婚葬祭入門」(塩月弥栄子/光文社)
- 4位 「誰のために愛するか」(曾野綾子/青春出版社)
- 5位 「創価学会を斬る」(藤原弘達/日新報道出版部)
- 6位 「私の人生観」(池田大作/文藝春秋)
- 7位 「心」(高田好胤/徳間書店)
- 8位 「続冠婚葬祭入門」(塩月弥栄子/光文社)
- 9位 「スバル教育」(石原慎太郎/光文社)
- 10位 「道」(高田好胤/徳間書店)

全国出版協会出版科学研究所

集者)による読者ニーズの分析と、それに基づいて組み立てられた編集戦略が、みごとに功を奏した好例として、後々まで語り継がれることになった。

同じくベストテンに自著を二冊も連ねた高田好胤は当時、奈良・薬師寺の管長だったが、宗教的なおいを消して、軽い口調の説教そのままだに、読者に親しく語りかけ、共感を得た。

また、これもミリオンセラーとなった塩月弥栄子の「冠婚葬祭入門」も、核家族化が進み社会生活の輪郭がいまになりつつあった時、まさに、頼りになる指針としての役割を期待されたのだった。「衣食足りて礼節を知る」ということはわかってはいるのだけれども、ではその「礼節」とは、と問われると、すでにかなり不明になっていたのである。

一方、この頃から旅行ブームが訪れ、特に若い女性を旅行に駆り立てたが、そんな傾向をいち早く察知して、新しいタイプの女性誌「an・an」が平凡出版(現・マガジンハウス)から創刊された。それまでの生活雑誌とは完全に一線を画した女性誌の衝撃的な登場だった。

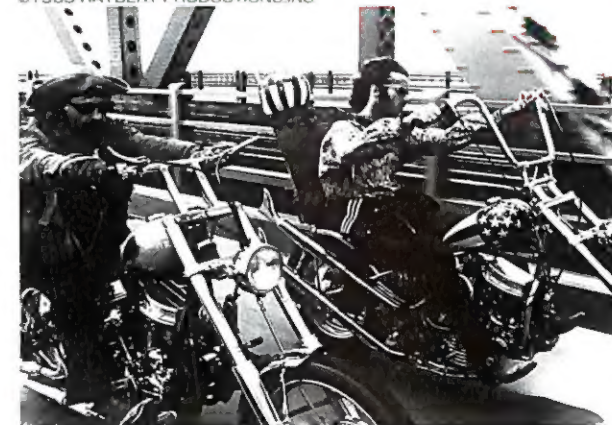
万国博が開かれ、好況の中、経済効率を求めてひた走り始めた世の中を反映したのだろうか、この年のベストセラー上位は、万国博ガイドブックをのぞくと、心の拠りどころを求める本で占められた。ミリオンセラーとなった、曾野綾子の「誰のために愛するか」(青春出版社)は、愛とは「その人のために死ねるかどうか」だと大胆に言い切り、不安に揺れる人々から多くの支持を得た。

この本の成功については、出版社(編

『誰のために愛するか』はじめ 心の拠りどころ本が続出

ベストセラー

©1969 RAYBERT PRODUCTIONS INC.



▲「イージー・ライダー」デニス・ホッパー監督/左=デニス・ホッパー、右=ピーター・フォンタ
ビデオ発売=ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント 2480円(税別)

▼暗さが魅力、藤圭子の「圭子の夢は夜ひらく」。



BMGピクチャー提供

「緋牡丹博徒・お竜参上」は、藤純子のどこか陰のある美しさを際立たせた作品であり、新たなファンも獲得、その人気を定着させた。「娘ざかりを渡世にかけて……」と藤純子が歌う時、映画館で起ころ手拍子は若者たちのやるせなさをストレートに表していた。



東映提供

この年、「薄幸」と笑顔など減多に見せない「暗さ」を前面に押し出したスターが登場した。

歌手の藤圭子である。「女のブルース」「圭子の夢は夜ひらく」「命預けます」と立て続けに発表された歌は、流しの歌い手だったという藤圭子の、決して明るくはないサクセスストーリーとともに、六〇年代後半の学園紛争や反戦運動などで挫折感を味わった若者たちの心をとらえたのである。

映画でも、任侠の世界から逃れられない宿命を引き受け、健気に生きる美しい女、藤純子(現・富司純子)演じる、緋牡丹お竜が人気を呼んだ。特にこの年公開されたシリーズ第六作の、加藤泰監督

スターと名場面 藤圭子、緋牡丹お竜とともに 若者が見た「トンネル」の出口

スターと名場面

「緋牡丹博徒・お竜参上」は、藤純子のどこか陰のある美しさを際立たせた作品であり、新たなファンも獲得、その人気を定着させた。「娘ざかりを渡世にかけて……」と藤純子が歌う時、映画館で起ころ手拍子は若者たちのやるせなさをストレートに表していた。

外国映画の「イージー・ライダー」も、どこか似た雰囲気を感じて、若者たちの心を引きつけた。そこに見たのは、世代間のギャップという装いを持った、社会からの「脱走」ドロップアウト」の実際だったのではないだろうか。

広中平祐(三九)

「敗北」を転機に力みが消え
日本人二人目のフィールズ賞に

九月三日、「朝日新聞」朝刊社会面に「広中氏にフィールズ賞 代数幾何学の難問解く」の大見出しが躍った。四年こ



▲昭和六二年六月、長男 浄のハーバード大学卒業式で。左から息子、平祐、浄、和歌子の広中一家。

とに開かれる国際数学者会議で選出されるフィールズ賞は、数学部門のないノーベル賞に代わるといわれるほどの賞である。受賞者資格として、四〇歳未満という年齢制限があり、広中平祐(三九)には最後のチャンスだった。「代数幾何学の特異点の解消」が授賞対象となった業績である。日本の頭脳海外流出第一号といわれた、昭和九年の小平邦彦に続き、日本人では二人目の受賞だった。

昭和六年、山口県山宇町で生まれた広中は、京都大学を卒業すると、フルブライト奨学金を受け、一六歳で単身渡米した。世界中の英才が集うハーバード大学大学院で研究できるとあって、広中は希望に燃えた。だが、一方で、「一生懸命やっても結果が出なかったら、研究どころか、生活さえままならないかもしれない。考えるとたまらない気持ちになった」という不安も常に感じていたという。

渡米当初、広中はこれといった研究成果をあげられなかった。そんな広中が輝き出したきっかけは、ある「敗北」だった。一年間取り組みながらどうしても解

法が見つけれないでいた課題を、若い学者が、先んじて解いたのである。広中は完敗だと感じた。なぜならその若い学者が解法に用いた定理は、数学者なら誰でも知っているものだったからだ。

なぜ自分はこの定理を見落としてしまったのか。

「一刻も早く認められようとあせるあまり、むやみに力んでいた。その力みが視野を狭め、ひとつの理論にこだわり続けた」ために、袋小路にはまっていたのである。

この「敗北」を転機に、広中は広い視野を持って研究することにつとめた。その結果、昭和九年の米岡リサーチ・コーポレーション・プライズ受賞を皮切りに、積み重ねた業績がフィールズ賞につながった。そして昭和五〇年の文化勲章受章を機に、頭脳の海外流出を嘆く日本側の声にこたえるように、ハーバード大学と兼任で母校・京大の教授に就任。さらに平成八年には郷里の山口大学学長に就任した。

「数学は、自己の内面への旅。だから、



▲昭和45年9月1日、フィールズ賞授賞式会場で、アラン・ベーカー(左)、シヨン・G・トンフソン(右)とともに。

数学者は組織のトップには向かないと思っていた。だがフィールズ賞受賞で世界的に業績が認められ、広く人と交わり、人間が大好きという、自分でも気づかなかった一面を発見できた。今回、外面への旅ともいえる大学学長を引き受ける気にさせた原点に、フィールズ賞があるかもしれない」と、広中は現在の心境を語っている。



「平和を口にしただけで」 南ベトナムの恐怖 「虎の檻」の囚人たち

その存在がひそかにささやかれていた「虎の檻」が、ついに発見された。それはサイゴン（現・ホーチミン市）の東南約二四〇、南シナ海に浮かぶコンソン島（現・コンダオ島）の刑務所第四獄舎の中にあつたこの雑居房の凄惨さは、ナチスのアウシュビッツを思わせるほどで、ロンドンの「ザ・タイムズ」紙は、「今や南ベトナム政府の正体が明らかになつた」と報道した。

一九七〇年六月二〇日から七月四日まで、アメリカ下院は超党派の議員二名からなる「東南アジア調査団」を現地に派遣した。南ベトナム政府やアメリカ大使館などの妨害をはねのけ、「虎の檻」に到着したのは、そのうちの四名、A・ホーキンス議員、W・アンダーソン議員、T・ハーキンズ専門委員、そして世界キリスト教会議ベトナム担当委員で通訳のドン・ルースである。

四人は事前に「虎の檻」から出獄した学生たちに接触、獄内の情報を入手していた。コンソン島の刑務所は、別名「ホーチミン大学」と呼ばれていた。もともとは、八六二年フランス人によって開設

されたものだが、ここから釈放された後、フランス支配からの解放を求めて結成された民族統一戦線（ベトミン）に参加する人々が数多く輩出したからだ。フランスに代わってアメリカが乗り出してきた後も、「悪魔の島」という異名で人々に恐れられていた。

当然、南ベトナム政府や当局はその事実をひた隠しにし、アメリカ公共公安部発行の「概説書」には、コンソン島刑務所は「同施設は進歩的で近代的に運営されアメリカ国内の刑務所と比較しても高い評価に値する矯正施設である」と記されてあつた。

しかしその実態は目にあまるものだった。この年五月二五日、同刑務所から釈放された五人の学生たちが発したアビールは、「この部屋は長さ三〇で、幅約一・五。この狭い檻に五人が放り込まれ、両足に足かせをはめられ、昼夜を問わず長さ四、五の金属製の棒に結びつけられていた。まるで餌をもらうために主人を待つ動物のような姿だった。コンソン島ほど人間の生命が安っぽく扱われているところは、決してほかにない。

だろう」と、その惨状を伝えている。「世界」一九七〇年九月号）

〇ほどで、檻と檻の間は厚さ一メートル以上の壁で仕切られ、約三〇〇人の人々が押しこめられていた。囚人の一人は「平和を口にしただけでここに入れられた。平

和はベトナム人全部が求めている。ぼくらはただ平和を求めているだけなのだ」と語ったという。

〇ページにわたる公式報告書には、このいまわしい事実に触れた部分は八行にすぎなかったが、ハーキンはその実態を表、世界を驚かせた。



廊下の両側に檻が並んでいる。囚人が食物を要求すると、看守が上から餌は石炭、冬は水をあひせかけた。



囚人たちはしゃべることも、動くことも、立ち上がることも許されなかった。食事や水は極度に乏しく、朝になるとバケツに放尿して、みんな分けて飲んだという。

高田賢三が颯爽とデビュー！ パリが注目したブティック 「ジャングル・ジャップ」開店

一九六〇年代後半、世界はベトナム戦争や中国の文化大革命などで大きく揺れていた。そしてパリでは、六八年（昭和四三）に学生・労働者によるゼネストが起こった。時代の風を敏感に察知した若

者たちは、新たな価値観を求め、次々に若者文化を生み出していったのである。こうした動きは、ファッション界にも大きな変化をもたらした。長い間、世界の憧れの的であったパリのオートクチュ

ールに、若者たちはあきあきしていた日本人デザイナーの高田賢三が、オートクチュールに変わるプレタポルテの旗手として登場したのは、こうした時代の転換期だった。

パリに滞在して五年、ファッション関係の雑誌やメーカーにデザイン画を売っていた高田は、一九七〇年（昭和四五）五月七日、パリのギャリリー・ヴィヴィエンスにブティック「ジャングル・ジャップ」を開いた。オーブニングショーには日本の浴衣地や紬、パリの蚤の市で見つけた古いリボンや占星術などを使って、急廻し〇点ほどの作品を用意した。

ショーの後、すぐに麻の葉柄のワンピースが「エル」の表紙を飾り、ついで

「マリ・クレール」「ジャルダン・デ・モード」「ヴォーグ」などにも取り上げられた。そして、カ月後の秋・冬コレクションでは大量の注文が殺到。高田賢三のパリ・デビューは大成功だった。

ケンゾー・モードは、美しく鋭利な体感にフィットさせる西洋の伝統的な服に抵抗することから始まった。彼の言う「反抗（ち）（直線裁ちや平面カット）」のゆとりある服を「アンチ・クチュール」と名づけた。そしてルーマニア、ギリシャ、アフリカ、中国などの民族衣装をテーマに、ケンゾーといえばフォークロアといわれる代表的モードを次々に発表。東西を融合した普遍的なデザインは、単なる日本趣味から脱したものだった。

一九七三年には、高田賢三がパリ・プレタポルテ・コレクションに作品を発表した。一枚の布から発想される「間」を感じさせる服は、これまでの西洋の概念にない新鮮な感覚を呼びおこし、「動く彫刻」といわれ、高い評価を得た。また、一九八一年には川久保玲・山本耀司が同コレクションに参加し、作品を発表。世界は日本人デザイナーの動向に注目するようになった。



右側壁の「ジャングル・ジャップ」店内の壁画



NING-BEAUTE
R ARRIVER EN FORME
VACANCES
OO EMPLOIS POUR
OO ETUDIANTS
MODE
MAISONS
BOIS

高田賢三の「ジャングル・ジャップ」店内の壁画

▲パッチワークと直線裁ちが多用されている本格的なフォークロアのコート。ヒマラヤ風。このほかにも、中国ルック、海賊ルックなど、自由な感覚をついたあげた作品は、世界中から注目された。



赤軍派、日本初のハイジャック! 日航機「よど号」乗客の122時間



▲3月31日午前9時すぎ、福岡空港に着陸。給油後人質23人を降ろし、犯人にソウルを平壤と誤認させる作戦に従い、韓国へ飛ぶ。6日新聞社

「赤軍派と称する、学生らしい十数人に日本刀を突きつけられ、北朝鮮の平壤へ行けと命じられた」

三月三十一日午前七時三十分、第一報が羽田空港管制室に入った。富士山近くを飛行中の、羽田発福岡行き日航機ボーイング727「よど号」(乗員七人、乗客三十一人)の石田真二機長からの連絡だった。日本航空史上初のハイジャックは、こうして幕を開けた。

犯人は赤軍派の田宮高磨ら九人。前年の一月、山梨県の大菩薩峠で武闘訓練をしていた同派の学生らが大量に検挙された。今回のハイジャックは「世界同時革命」に備える「革命の根拠地づくり」のために、朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)を選んだという説、逮捕状が出て身動きのとれなくなったメンバーが、とてあえず北朝鮮に脱出するという国外逃亡説などが当時流された。

「よど号」に同乗していた聖路加病院内科医長の日野原重明氏(現・聖路加看護大学学長、八六)は、「羽田を飛び立つてから約一〇分後、男たちが行動を起し

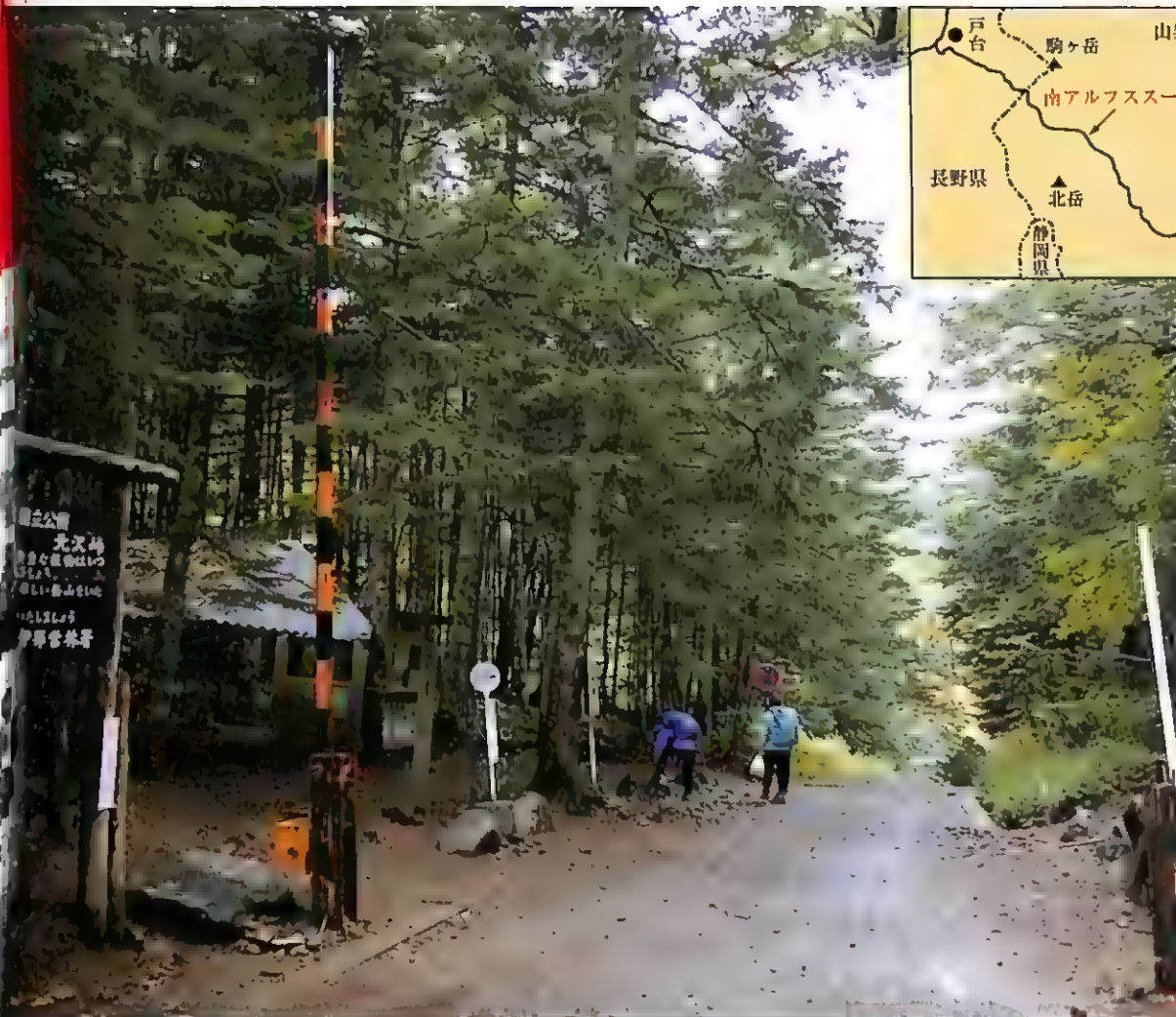
日本初のハイジャックは、赤軍派の学生らによるものだった。闘争の最大テーマだった「七〇年安保」を前に学生運動はすでにピークをすぎ、その一部は突出して孤立化し、あるいは海外に突破口をみいだそうとしていた。これ以降、学生運動は急速に退潮していくことになる。

日本刀を振り回す犯人と冷静だった人質の乗客

「現場」を歩く 山本徹美

南アルプス

「環境破壊」スーパー林道の現実



▲現在の北沢峠。海拔2032メートル。長野県長谷村と山梨県芦安村の境にある峠で、ここからの北岳の展望は素晴らしい。

南アルプススーパー林道という名から私は森林を抜けるハイウェイのような道を想像していた。

甲府駅でスーパー林道路線のバスに乗る。発車後四〇分くらいして、バスガイドが「山道ですから、前後左右に大きく揺れることもございます」と注意。その言葉に誇張はなかった。S字カーブの連続で、車は弧を描くようにして坂道を登り、たえず身体が揺れる。道は、フレア

状に広がった山脈の裾を縫うように、南アルプスを乗り越えるべく造られているのだ。幅員は四割そこそこ。車両と出会ったら、どちらかが後退して、譲る。バスガイドが添乗しているのはバックする際の安全確保のためだった。

やがて夜叉神峠に到着。標高一七七〇メートルの展望台正面に北岳が位置している。その大岩壁「バットレス」(胸壁)は山男が一度は征服を夢見る。かつて山登りをしていた私は、まさか背広で眺めようとはと苦笑した。バスの乗客はすべて登山装備をしている。そのうち七割は五〇代から六〇代、半数が女性である。五二歳の婦人が言う。

「この歳で北岳に登れるなんて、ひと昔前では想像もできなかったでしょうね」

林道が中高年クライマーに喜びと楽しみを提供したというべきか。



▲山梨県北沢峠付近での、南アルプススーパー林道工事風景

「林道は村の生命線」

南アルプススーパー林道とは、山梨県芦安村桃ノ木橋を起点として夜叉神峠、広河原、北沢峠、長野県長谷村、平へと続く五六・九キロの道をさす。森林開発公社によって昭和四二年、二月工事着工。ところが、四八年、自然保護団体が環境破壊につながるとして工事の中止を環境庁などに訴える。環境庁では現地視察のほかに自然環境保全審議会を開くなど検討を重ねる。その間、工事は中断した。

これに対して地元で芦安村と長谷村の村民は工事再開を嘆願した。望月義清・芦安村村長が語る。

「林道開通は村の願いでした。林道なしではとうとう山の中へは入って行けない。植林、治山堰堤工事もままならない。私たちがとって山は近くて遠い存在でした。道さえあれば就労の機会がふえる。山登りをしに都会から登山家や観光客がやって来るだろうし、その受け皿となる宿泊施設の経営も成り立つ。林道ができれば村が活性化するわけで、その意味では生命線と、言ってもよかったです」

五年間の審議を経て、五二年、工事は再開。五五年六月、開通式が行われた。総工費四八億八〇〇万円。

「山は近くなりました。村には活気が出てきました。過疎化に歯止めがかかったばかりか、都会からの流入人口がふえたとです」(望月村長)

村の人口約六〇〇のうちの三分の一が東京など都市からの移住者だという。

自然保護の運動も、応の成果をおさめた。広河原から北沢峠間はマイカー乗り入れ禁止となったし、午後七時以降午前五時まで、全車両通行禁止など、排気ガス対策がとられている。現在のところ高山植物などに悪影響は認められないという。



▲3月31日午後3時16分、「よど号」はソウル郊外の金浦空港に着陸。空港は平壤の飛行場に似せて擬装されていたが、犯人は見破って機内に籠城。 WWP

つる一方の望郷の念、赤軍派の帰国問題が浮上

さて、事件の後日談である「男、山村新治郎」の勇名を馳せた山村次官は、運輸大臣などをつとめたが、平成四年（一九九二年）に刺殺されるという悲劇を迎えた。ハイジャック犯人のうち、吉田金太郎は昭和六〇年に北朝鮮国内で死去、柴田泰弘は六一年、日本に帰国中逮捕され、懲役五年の実刑を受けて平成六年に出所している。リーダー格の田宮高磨はその翌年に心臓発作で死去。田中義三は平成八年にカンボジアで偽造米ドル札を所持していたとして逮捕された。北朝鮮に残っているのは五人になった。

吉田をのぞく八人はいずれも日本人女性と現地で結婚しており、合わせて一〇人の子どもがいるという。残された小西隆裕、若林盛亮、赤木志郎、岡本武、安部公博の五人と家族の多くは日本への帰国を希望している。

「子どもたちだけは、何とかして日本に帰してやりたいんや」と、田宮はじくくなる直前まで言い続けていたという。その子どもたちは、「帰国」に備えて、母親から日本語や日本の歴史、習慣などを学んでいる。日本国内の支援活動もあって、今や帰国問題が焦点となってきた。

もう一方の主役「よど号」は当時、日航が東亜国内航空（現・日本エアシステム）からリースしていた機体だった。その後も日本の空を飛び続けた後、昭和五一年にドイツの航空会社に売却され、現在はアメリカの航空会社ビスカウント・エア・サービスの所属し、現役で活躍している。

赤軍派、日本初のハイジャック！ 日航機「よど号」乗客の122時間



▲4月3日、平壤空港到着後、北朝鮮の当局者から、携帯した武器のチェックを受ける田宮高磨ら。



▶「よど号」ハイジャック犯が持ちこんだ日本刀、タイナマイトの数々

した。その時、最前列の座席にいた五〇歳くらいの元氣な男性が、操縦室に入つていこうとするグループに飛びかかったが、刀のさやで殴られた。私は後ろから二つ目の通路寄りの座席にいたが、通路の中央部で刀を抜いた。人の男を見て、

「気が狂ったのか」と、ときりとしたと事件を振り返る。

ハイジャックは昭和四一年頃から世界各地で多発。この年の二月にも、イスラエル行きのスイス航空機が謎の爆発を起こして、乗員と乗客全員が死亡する事件があったばかりだ。

日航機は給油を理由に福岡空港に着陸して、病人と老人、子どもら一八人を降ろした後、午後一時五十分、北へ向けて飛び立った。

午後三時一六分、韓国の金浦空港に着陸。北朝鮮兵に擬装した精鋭部隊三名が、歓迎のフラカードを持って出迎えたが、犯人たちに「ここは平壤ではない」と見破られてしまい、九日間の膠着状態におちいる。

この間、機内はエアコンがとまり蒸し暑く、食事と水は少量しかなかったが、乗客たちは落ち着いていた。

四月三日午後二時一八分、身代わり人質を申し出た山村新治郎運輸政務次官と引き替えに、乗客とスチュワーデス全員が七九時間ぶりに解放された。

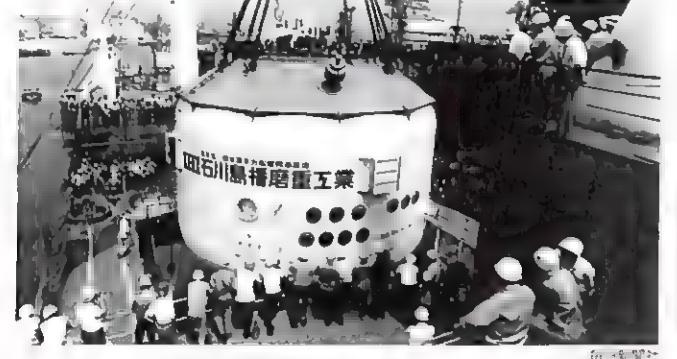
同日午後六時四分、「よど号」は石田機長ら乗員三人と山村次官、犯人九人の計一三人を乗せて金浦空港を飛び立ち、七時頃に北朝鮮領内の空港に着陸。翌四日、北朝鮮側は板門店を通じて機体と乗員の帰国許可を伝えてきた。

五日、午前七時一〇分に平壤郊外の空港を飛び立った「よど号」は同九時一〇分、一時間ぶりに羽田空港に帰還し、拍手と歓声で迎えられた。

この事件がきっかけとなって、空港には金属探知機が備えられ、ハイジャック防止法が同年六月に施行された。

フォト+日録で再現する365日

◀◀日本初の原子力船「むつ」、母港に帰還(7月13日)前月、東京湾で補助エンジンによる試験航行に成功、この日、青森県むつ市大湊港で引き渡し式が行われ(左)、8月に原子炉容器が積みこまれた(下)。



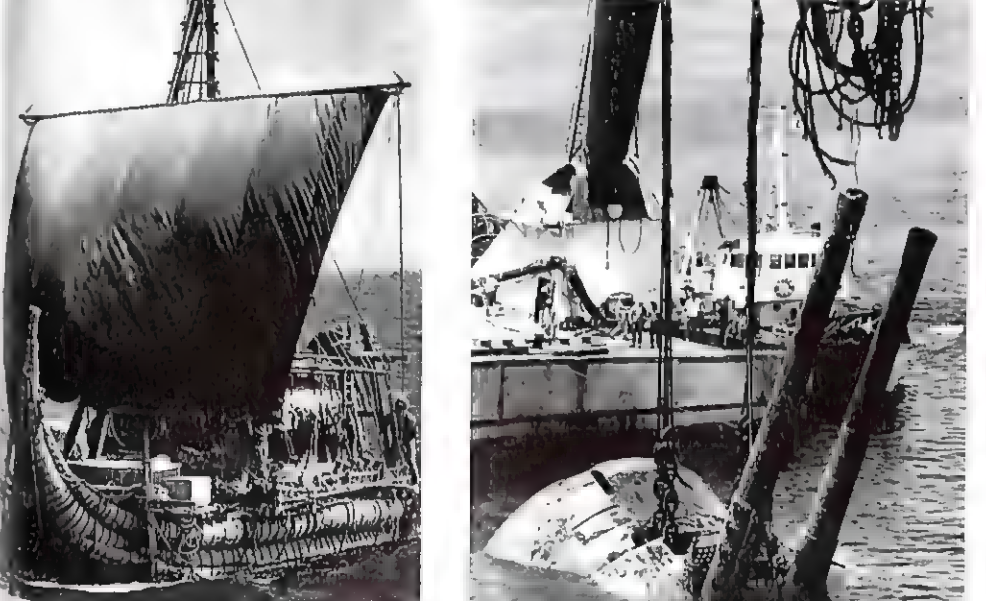
▶家永教科書裁判に朗報(7月17日)東京教育大教授・家永三郎が起した検定処分取り消し請求訴訟で、東京地裁は原告側の言い分を認める判決を下した。写真は激励の寄せ書きを手にする家永教授。



- 昭和45年7月
- 1 水 ●日航ジャンボ旅客機、ソウル便に初就航
 - 2 水 ●橋本運輸相、一〇〇万、タンカー建造を過問
 - 3 金 ●映画「イージーライダー」三週目のロングラン
 - 4 土 ●日航、ハイジャック防止のため、乗客の機内での飲食を禁止
 - 5 日 ●四四年の労災事故死は六、〇八八、と新聞に
 - 6 月 ●教育でのコンピュータ利用国際セミナー開催
 - 7 火 ●奈良県、奈良市、景観保存史跡指定による生活規制に反対し期成同盟を結成する
 - 8 水 ●宗教法人は、六種の事業を営む文化庁、生活規制に反対し期成同盟を結成する
 - 9 木 ●食糧庁、カトミツムの安全基準を超える地区の米は購入しないとの方針を表明する
 - 10 金 ●札幌高裁、長沼ナイキ訴訟で、福島裁判長が青法協会員だとする国の退避抗告を棄却
 - 11 土 ●共産党、宮本委員長を議長で警察庁に抗議
 - 12 日 ●文化財保存全国協議会が、結成総会を開く
 - 13 月 ●若手県経連の元職員、女性の二歳定年は女性差別で違憲と盛岡地裁に告訴する
 - 14 火 ●閣議、日本は「一ツボン」を決定
 - 15 水 ●千葉市花見団地で自治会タスクが開業
 - 16 木 ●沖縄で頻発する米兵犯罪対策で軍民会議開催
 - 17 金 ●東京地裁、家永教科書裁判で検定不当の判決
 - 18 土 ●東京、杉並の高校で初の光化学スモッグ
 - 19 日 ●自由米業者らの連絡協議会、初の全国大会
 - 20 月 ●徳島地裁、徳島ラジオ商殺し事件(28年11月)の被告による再審請求を三たび却下する
 - 21 火 ●農林省、農産物のキャベツ産地廃棄制を実施
 - 22 水 ●都教育長、体罰禁止を全都立学校長に通告
 - 23 木 ●山口県和賀町で「戦艦」の展示会開催
 - 24 金 ●黒部平と大瀧峠を結ぶ立山ロープウェイ開通
 - 25 土 ●海上保安庁、鹿島など海上公営の取締り実施
 - 26 日 ●船ヶ岳取材中の読売新聞ヘリ墜落、一人死亡
 - 27 月 ●都で光化学スモッグ注意報、都庁で警報開始
 - 28 火 ●閣議、中央公署、対米本部の設置、決定
 - 29 水 ●銀行振り当て集団スリ続発で広域事件に指定
 - 30 木 ●高槻市の高校で火事、埋蔵文化財一万点焼失
 - 31 金 ●最高裁、保身事件(29年10月)の死刑判決破棄

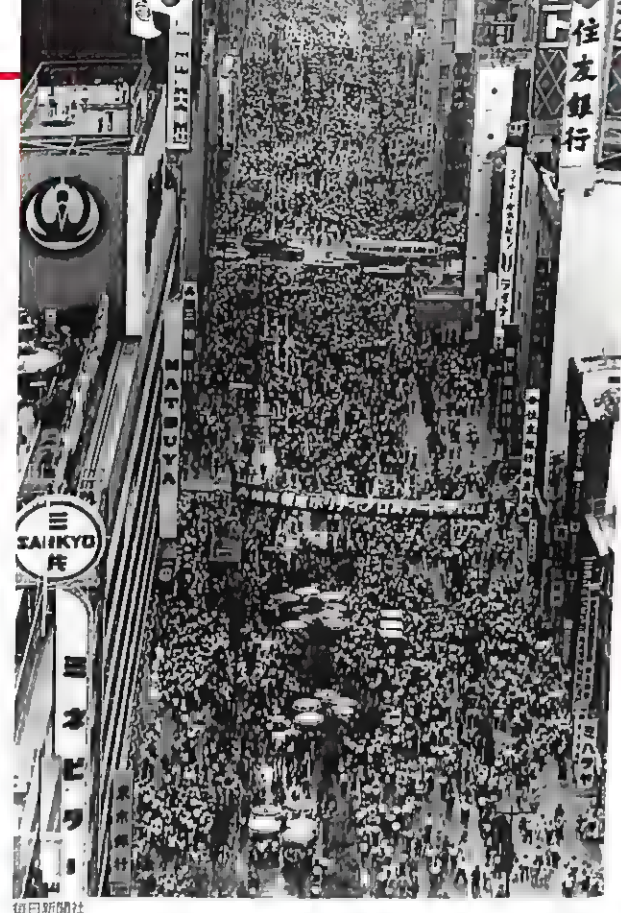


▼戦艦「陸奥」の砲塔引き揚げ(7月23日)昭和18年に山口県東和町の和田沖で、原因不明の爆発で沈没していたもので、引き揚げられたのはその4番砲塔。多数の遺骨・遺品も発見、艦尾は翌年引き揚げられた。



▲古代バビルス船「ラー2世号」、大西太平洋横断に成功(7月12日)ヘイエルダール博士らの乗る華製の帆船で、この日、西インド諸島のバルバドスに到着。写真は5月にモロッコを出港した時の様子。

- 昭和45年8月
- 1 土 ●中古車の排ガス規制を開始
 - 2 日 ●銀座、新宿などで初の歩行者天国を実施
 - 3 月 ●山田広島市長、原爆碑文は改定せずと表明
 - 4 火 ●中核派に拉致された革マル派学生の遺体、法政大構内で発見(14日に報復、内ゲハ激化)
 - 5 水 ●日本初の超高度気象観測ロケット、打ち上げ
 - 6 木 ●電電公社、四七年度から市内三分一〇円など、電話料金の改定案(遠距離は割安)を発表
 - 7 金 ●青森県、沢地区で、米兵の外出禁止求め集会
 - 8 土 ●中島正一、日本人初のドーバー海峡横断水泳
 - 9 日 ●田子浦港でヘドロ公害追放抗議集会を開催
 - 10 月 ●尖閣諸島の油田探査を米国企業に許可した台湾に抗議した、と愛知外相が答弁する
 - 11 火 ●食糧庁規則改正で、スーパーでもお粥(粥)へ
 - 12 水 ●沖縄米軍軍事法廷、女子高生刺殺事件(5月)の米兵に重労働懲役二年、不名誉除隊の判決
 - 13 木 ●東芝、LSIの多種多様な生産に成功と発表
 - 14 金 ●京都地裁、サリドマイドの大日本製薬を再捜査の結果、「未必の故意なし」と不起訴処分
 - 15 土 ●建築学会が万博のカナダ館など二館に特別賞
 - 16 日 ●神奈川県で環境保護運動の連絡会を結成
 - 17 月 ●都内ソフトクリーム店二店が営業停止
 - 18 火 ●広島県、昭和電工に福山市進出断念を要請
 - 19 水 ●全日空機乗っ取られ浜松に着陸、犯人逮捕
 - 20 木 ●ジョネーノ軍艦を日本の代表が公海上の、サイル実験の規制を提唱する
 - 21 金 ●歴史的風土審議会、飛鳥京を保存区域に指定
 - 22 土 ●昭電川崎工場のヘドロから多量のシアン検出
 - 23 日 ●米上院、沖縄返還の秘密閣議会記録を公表
 - 24 月 ●米上院、沖縄返還の秘密閣議会記録を公表
 - 25 火 ●閣議、次期自由化措置を決定する
 - 26 水 ●ビデオ企画、制作会社設立相次ぐ、と新聞
 - 27 木 ●横浜市教委、学校完成まで洋光台団地三七五世帯の入居延期を住宅公団に申し入れる
 - 28 金 ●一〇〇万、以下の対外直接投資の自由化決定
 - 29 土 ●田子浦港でヘドロ公害に反対し漁船デモ
 - 30 日 ●田子浦港でヘドロ公害に反対し漁船デモ
 - 31 月 ●女性校長は全国で二〇〇人、と文部省調査



▶東京に歩行者天国(8月2日)日曜日のこの日、銀座・新宿・池袋・浅草でスタート。車を追い出し道路を歩行者に開放した。写真は銀座の様子で、23万人がのびのび。CO濃度も急低下した。



▼日本ソフトボール世界一に(8月30日)万国博を記念して、大阪・長居競技場で行われていたソフトボール世界選手権で、日本女子がアメリカを破って優勝した。



証言・あの日この日
植草甚一
12月31日(木) (12時半に起き、6時ころヤマハへ出発するまで「ジャーナル」の原稿を書くことにする。油井さんに渡してくれという電話がきのうあった。20枚まで書き、6時に家を出て、渋谷で本を2冊。銀座はヒソソリ、平日のよう。ヤマハで8時半ころ喋る。……新宿へ出る。平日とまあ変わらない。DIGにちょっとより、コマ劇場あたりを散歩、アルバイトのサンドイッチマンがほくどと知っていて呼びとめられる) (『植草甚一日記』)
特異なジャズ・映画評論家として一部に熱心なファンを持っていた植草甚一は、この年10月に刊行された『ほくどは散歩と雑学がすき』(晶文社)によって、さらに多くの若者たちの支持を集め、町を歩くとしばしばサインを求められることになる。普通の人が家庭生活に戻る年末年始も、植草甚一の日常はいつもと変わらない。(坪内祐三)



- 昭和45年8月
- 1 土 ●中古車の排ガス規制を開始
 - 2 日 ●銀座、新宿などで初の歩行者天国を実施
 - 3 月 ●山田広島市長、原爆碑文は改定せずと表明
 - 4 火 ●中核派に拉致された革マル派学生の遺体、法政大構内で発見(14日に報復、内ゲハ激化)
 - 5 水 ●日本初の超高度気象観測ロケット、打ち上げ
 - 6 木 ●電電公社、四七年度から市内三分一〇円など、電話料金の改定案(遠距離は割安)を発表
 - 7 金 ●青森県、沢地区で、米兵の外出禁止求め集会
 - 8 土 ●中島正一、日本人初のドーバー海峡横断水泳
 - 9 日 ●田子浦港でヘドロ公害追放抗議集会を開催
 - 10 月 ●尖閣諸島の油田探査を米国企業に許可した台湾に抗議した、と愛知外相が答弁する
 - 11 火 ●食糧庁規則改正で、スーパーでもお粥(粥)へ
 - 12 水 ●沖縄米軍軍事法廷、女子高生刺殺事件(5月)の米兵に重労働懲役二年、不名誉除隊の判決
 - 13 木 ●東芝、LSIの多種多様な生産に成功と発表
 - 14 金 ●京都地裁、サリドマイドの大日本製薬を再捜査の結果、「未必の故意なし」と不起訴処分
 - 15 土 ●建築学会が万博のカナダ館など二館に特別賞
 - 16 日 ●神奈川県で環境保護運動の連絡会を結成
 - 17 月 ●都内ソフトクリーム店二店が営業停止
 - 18 火 ●広島県、昭和電工に福山市進出断念を要請
 - 19 水 ●全日空機乗っ取られ浜松に着陸、犯人逮捕
 - 20 木 ●ジョネーノ軍艦を日本の代表が公海上の、サイル実験の規制を提唱する
 - 21 金 ●歴史的風土審議会、飛鳥京を保存区域に指定
 - 22 土 ●昭電川崎工場のヘドロから多量のシアン検出
 - 23 日 ●米上院、沖縄返還の秘密閣議会記録を公表
 - 24 月 ●米上院、沖縄返還の秘密閣議会記録を公表
 - 25 火 ●閣議、次期自由化措置を決定する
 - 26 水 ●ビデオ企画、制作会社設立相次ぐ、と新聞
 - 27 木 ●横浜市教委、学校完成まで洋光台団地三七五世帯の入居延期を住宅公団に申し入れる
 - 28 金 ●一〇〇万、以下の対外直接投資の自由化決定
 - 29 土 ●田子浦港でヘドロ公害に反対し漁船デモ
 - 30 日 ●田子浦港でヘドロ公害に反対し漁船デモ
 - 31 月 ●女性校長は全国で二〇〇人、と文部省調査



▲旅客機を相次いでハイジャック(9月6日)パレスチナ解放人民戦線(PFLP)は、ライラ・ハリド(右)らパレスチナゲリラの解放を要求し、欧州で旅客機を連続ハイジャック。翌日、カイロ空港でパンアメリカン機を爆破した(左)。



共同通信社



共同通信社

▲猛烈残暑に大粒の雨(9月3日)午後5時頃から約30分間、関東・東海地方を稲妻をともなう大粒の雨が襲い、地下鉄のホームが冠水するなどの被害が続出したが、雨の後はすこしやすくなった。

▲終始笑顔の佐藤首相(9月25日)第8回芸術・文化関係者との懇談会が、東京・永田町の首相官邸で開かれ、作家・俳優など約600人が出席。4選がほぼ決まった首相は、最後まで上気げだった。

共同通信社



京都新聞社

▲自衛隊機、民家に墜落(9月2日)大阪府八尾飛行場から、石川県小松基地へ向かう途中の航空自衛隊双発プロペラ機が、滋賀県彦根市金剛寺町で墜落。乗員4人が即死し、民家3棟が全半焼した。

▲日本最古の庭園跡発見(9月11日)奈良県明日香村の小壁田宮跡を調査していた奈良国立文化財研究所は、同宮跡東南の隅から、飛鳥時代の庭園とみられる池、曲水跡の遺構などを発掘した。



共同通信社

CORBIS-BETTMANN PPS



朝日新聞社



読売新聞社

▶デゴイチ(D51)、さよなら運転(10月10日)鉄道の無煙化とともに、ダイヤから姿を消していた蒸気機関車がこの日約1000人のファンに見送られ、新幹線とともに、東京駅を出発、横浜駅に向かった。

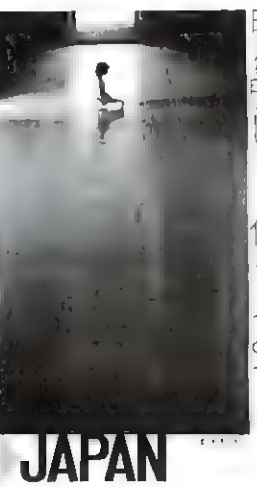
▲「ディスカバー・ジャパン」始まる(10月14日)万国博後の減客対策で国鉄は観光客重視を打ち出し、キャンペーンの全国展開を始めた。企画は電通が担当、若い女性をおもな対象に51年まで続けられた。写真は46年夏のポスター。

▶永田オーナー喜びの日、ロッテ優勝(10月7日)ロッテ・オリオンズは、東京球場で対西鉄25回戦を行った。ロッテは5対4で西鉄を破り、2位南海に13ゲーム差で、10年ぶりのパリーグ優勝をとげた。

▼反対闘争本格化する北富士演習場(10月20日)5年ぶり実施の米軍による実弾射撃訓練に反対の地元住民は、8月に座りこみ用の小屋を建てて抵抗したが、10月27日に小屋は強制撤去された。



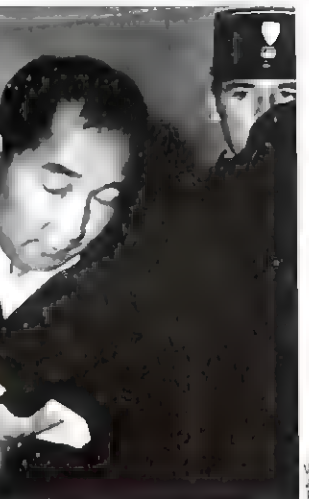
毎日新聞社



DISCOVER JAPAN

共同通信社

▲爆発事故で民家に被害(10月24日)長崎市の三菱重工長崎造船所で、ボイラーとヒーターボックスが爆発し、噴き上げられた鉄塊が付近の民家を直撃。住民1人を含む従業員58人が死傷した。



▲19億円不正融資の容疑者、パリで逮捕(10月4日)東京の富士銀行雷門支店の不正融資事件で逃亡中の容疑者が逮捕され、16日強制送還、後に起訴された。

昭和45年9月

- 1 日本総合研究所設立(理事長 茅沢司) 阪中平祐、数字のフィリッパ賞を受賞する。
- 2 札幌地検、心臓移植の和田芳郎を不起訴処分 彦根市の民家に自衛隊機墜落、乗員4人死
- 3 横濱でクロロ入りジュースを販売の社に逮捕 4 日本企業、ロッキードにタンク容疑を告発、発表
- 5 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人 6 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人
- 6 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人 7 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人
- 7 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人 8 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人
- 8 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人 9 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人
- 9 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人 10 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人
- 10 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人 11 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人
- 11 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人 12 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人
- 12 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人 13 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人
- 13 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人 14 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人
- 14 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人 15 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人
- 15 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人 16 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人
- 16 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人 17 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人
- 17 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人 18 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人
- 18 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人 19 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人
- 19 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人 20 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人
- 20 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人 21 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人
- 21 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人 22 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人
- 22 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人 23 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人
- 23 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人 24 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人
- 24 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人 25 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人
- 25 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人 26 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人
- 26 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人 27 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人
- 27 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人 28 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人
- 28 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人 29 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人
- 29 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人 30 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人
- 30 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人 31 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人
- 31 万博、1日入場者が史上最高、8万5千5百人



▲3兆円のボーナス景気(12月6日)大手企業のボーナスも出揃い、初のボーナス・サンデーのこの日、デパートには客が押し寄せ、売り上げは史上最高を記録した。



読売新聞社



読売新聞社

▲強盗男、トイレに籠城(12月18日)石川県で車ごと強盗を盗み、強盗に押し入ろうとした男が発見されて逃走。高岡市郊外の二上山のトイレでようやく逮捕された。



▲荒れ狂う反米感情(12月20日)沖縄コザ市で、米軍の交通事故処理をきっかけに日頃の不満が爆発。住民約5000人が車73台、嘉手納基地内の小学校3棟を焼き、20人が逮捕された。



W.P.

▲両国の暗い歴史に幕(12月7日)ワルシャワを訪れたブランド首相は、西ドイツ・ポーランド条約に調印し、ユダヤ人勇者の碑に花束と祈りを捧げた。

▶求人減少に労働者らの不満爆発(12月30日)大阪市西成区のあいりん地区で、万博後の不況による賃金の低下や、手配師の暗躍に労働者ら約500人が不満を爆発、労働福祉センターに放火するなど混乱した。



朝日新聞社

▲西側よし、大会初の5冠王(12月16日)タイのバンコクで開催中のアジア競技大会8日目、西側よしみは、女子200メートル個人メドレーに日本新で優勝、5個目の金メダルを獲得した。



▲黒煙上げて炎上、大型タンカー(11月28日)横浜港沖に停泊中のタンカー「ていむす丸」(7万7541トン)がタンク清掃中に爆発し、4人が死亡、24人が重軽傷を負った。



朝日新聞社

▶患者の怒り爆発、チッソ株主総会(11月28日)大阪厚生年金会館で開かれた株主総会は4分、説明会は30分だった。会社の責任追及で出席した約100人の水俣病患者らが強く抗議し、怒号と大混乱のうちに閉会した。

▲公害をなくし、青空と緑を(11月29日)反公害運動に消極的だった労働組合と公害被害者の市民団体が連携。全国40都道府県の150会場で初の公害メーデーが開かれ、約82万人が参加した。



毎日新聞社



毎日新聞社



朝日新聞社

- 昭和45年12月
- 1 公 立会議会開催、選挙公報配布など初の完全な公営による選挙、茨城県選挙告示。
 - 2 水 偏尚教育として懲戒免職処分を受けた福岡伝道館高校の二教師が処分取り消し求め提訴。
 - 3 木 建設 農林両省、大都市近郊の無秩序な宅地化を避けるための開発構想をまとめる。
 - 4 金 三和銀行、カード式自動預金機を開発と発表。
 - 5 土 一月の大型企業倒産は過去最高、と判明。
 - 6 日 11月でひな壇が崩れ、合唱団員 四人負傷。
 - 7 月 全通、全国の拠点郵便局で三日間の休職闘争。
 - 8 火 立命館大で「わたつみの像」再建され、除幕式。
 - 9 水 超党派の日本中国友好会連合会、北京に代表団を派遣。
 - 10 木 文部省、教科書での公害の記述総点検を開始。
 - 11 金 河川では初めて飛鳥川が史跡に指定される。
 - 12 土 三和など四行と野村證券、国際合同銀行設立。
 - 13 日 沖繩の主婦殺害(9月)米兵に軍事法廷が無罪。
 - 14 月 大阪住居者で、警官のミスから三人が逃走。
 - 15 火 米軍の山田弾薬庫退避通告を、防衛施設庁が受け入れ態勢不備を理由に拒否、と判明する。
 - 16 水 北海道の三井砂川鉱でガス爆発、一人死亡、八人けが。ハイジャック防止条約を採択。
 - 17 木 万博で外国人露店四八店が二億四〇〇〇万円売り上げ、七〇〇万円納税、と国税庁発表。
 - 18 金 京浜安保共闘、板橋の交差点を襲撃し五人死傷。
 - 19 土 沖繩美里村で毒ガス兵器撤去要求、万人集会。
 - 20 日 沖繩コザ市で、反米騒動が起きる。
 - 21 月 日米安保協議委員会、横田、二所基地の米軍兵力を沖繩、韓国に移転すること合意。
 - 22 火 大阪で都市有線テレビが送信を開始。
 - 23 水 公職選挙法改正公布、ビラ、ポスター規制。
 - 24 木 公職選挙法改正公布、ビラ、ポスター規制。
 - 25 金 公害対策基本法改正など公害関係一四法公布。
 - 26 土 裁判官に憲法協定加入、天皇制是非の質問状を送付した飯守鹿兒島地裁所長が解任される。
 - 27 日 松戸市で段ボール工場一〇〇〇平方メートル火災。
 - 28 月 慶大病院が生体実験は無給で一日だけと通告。
 - 29 火 米備を物価統制令から解除、と政府決定。
 - 30 水 米備を物価統制令から解除、と政府決定。
 - 31 木 日中漁業代表団、巻き網漁業の規制に合意。

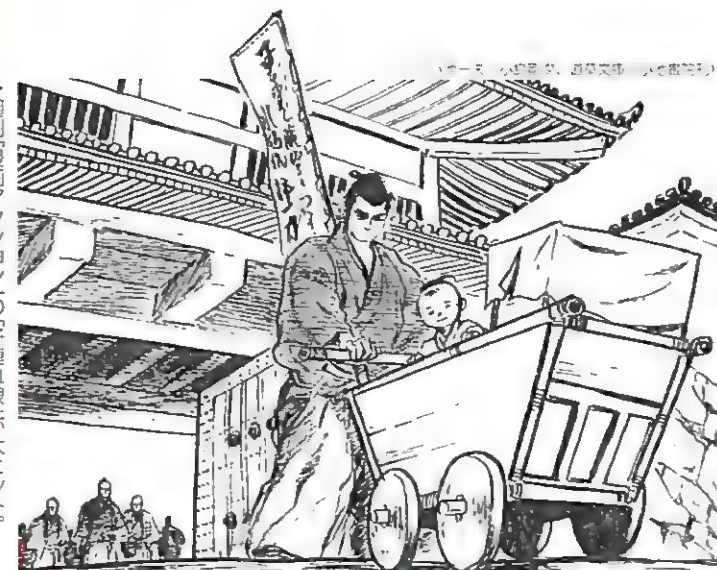
- 昭和45年11月
- 1 日 社会党訪中、中国との共同声明に調印する。
 - 2 月 悪質者排除のタクシー運転手登録制度を実施。
 - 3 日 日本消費者連盟、ブリタニカ日本支社の資料典販売法は消費者を惑わす、と地検に告発。
 - 4 火 米、日本製チヨウナーにダンピング税を賦課。
 - 5 水 文化庁、「文化財白書」を発表。保護を強調。
 - 6 金 全国のカドミウム使用工場の五六が排水基準を超過、と通産省が調査を発表。
 - 7 土 兵庫県安富町で日本最古の民家を復興工地上げ。
 - 8 日 四歳児はひらがなを四、五歳児は五、六歳児を判読すると国立言語研究所が調査結果を発表。
 - 9 月 山梨県奥湖でラリー中の車が転落、二人水死。
 - 10 火 都内で自動車の排ガス一斉点検を初めて実施。
 - 11 水 千葉市でアジア初の技能オリンピック開催。
 - 12 木 外航タンカーで初の女性乗員一〇人が決定。
 - 13 金 川崎市で初めて二〇代の公害病患者が死亡。
 - 14 土 鹿島工業地帯でアンモニア噴出、数百人中毒。
 - 15 日 日本初のウーマンリブ大会、東京で開催。
 - 16 月 沖繩で戦後の衆参両院選挙を実施した。
 - 17 火 公取委、メーカと問屋からの「手強い店員」は独禁法違反と、デパート一八三社に警告。
 - 18 水 大阪のガラス会社社長、延べ四〇〇人の児童に危険な作業をさせた容疑で書類送検される。
 - 19 木 経団連など「団体公害訴訟」に反対を表明。
 - 20 金 閣議、沖繩復帰対策要綱、第一次分を決定。
 - 21 土 同手紙を二人に書かなければ不幸になるとする「不幸の手紙」が流行、と新聞に。
 - 22 日 通産省、島根県法田沖の石油試験を許可する。
 - 23 月 日本野鳥の会、多治見市でかすみ網実態調査。
 - 24 火 脱走犯、浦和でアパート占拠後、自殺をはかる。
 - 25 水 第六四臨時国会、公害国会、が召集される。
 - 26 木 島田紀夫、自衛隊中隊の駐屯地を脱走、タイエー、カマーレを脱走させて脱走。
 - 27 金 佐藤首相、台湾政府との関係は不変、と答弁。
 - 28 土 アジア開発銀行、初の円貨貸付契約に調印。
 - 29 日 チッソ株主総会後、水俣病患者の社長を追及。
 - 30 月 美浜原子力発電所の二台機、営業運転を開始。
 - 31 日 初の公害メーデー、全国で八二万人参加。
 - 32 月 労働省の調査で、自衛隊を脱走するものが多い。その七、八が自衛隊の訓練で脱走したと判明する。

燃楽多市

流行語

高度成長の世相にウハウハ

「ハヤシもあるですよ」。四五五年はハウス食品の「ウハウハ喜ぶ」と、オリエンタルカレーの「ハヤシもあるですよ」という二つのテレビCMが、爆発的に流行した。「ウハウハ」はもうかつてもうかつて笑いごととまらないという高度成長の世相にピッタリで、何かにつけて体を前後にゆらしながら「ウハウハ」を連発する姿があらこちで見うけられた。一方「ハヤシもあるですよ」は、コメディ



週刊漫画アクションの「子連れ狼」が大ヒット。

ファッション

理想のスタイルは、肉体派からガリガリ派へ

西ドイツの婦人服組合が、理想的プロポーション像を、○年ぶりに変更すると発表した。前回設定した時は女性の間に、肉体派女優ジェーン・マンズフィールド（バスト○四、ウエスト四六、ヒップ）への憧れが強かったため、その要

素を加味したが、現在の憧れの的はモデルのツイッギー（バスト七二、ウエスト五五、ヒップ九二）に合うわけがないというわけ

リスト

労働省が作ったムダな職業一覧の中味は

労働省が「労働力ムダ遣い総点検」というリストを発表した。世の中にはムダな職業がいっぱいある。それらを廃止、縮小、機械化の三つに分類したもので、人手不足の折からこれらの職業についている人は転職しなさいというもの。やり玉にあがった職業は、廃止・パートのエレベーターガール、お手伝いさん、飲食店の出前、キャバレーのホステス、クツ磨き、ゴルフ場のキャディー、ピルの受付、タクシー乗り場の案内係など。

縮小・パートの売り子と商品包装と配達。鉄道の出札業務、マージャン屋など。

機械化。観光バスのガイド（テープで代用）、パチンコの玉売り、映画館の入場券売り、田植え、稲刈りなど。

これに対して、よけいなお世話だ。一番ムダなのはこんなリストを作っている労働省だ」と反発する声も強い。

物価

二〇〇円の駅弁の原価を計算してみると

万博博をきっかけに駅弁の人気が高くなった。駅弁業者は全国に三〇〇、トップは日本食堂で一日



▲長髪とモノセックス。ファッションが流行。

第（二〇）から「バンドを作りたいが楽器がないので盗みたい」と相談を持ちかけられ、自分も卒業の資料にするため協力することにした。それからは二人して都内の音楽事務所からエレキギター、ドラム、バンドマンのユニフォームなどを次々に盗んでいたもの。

捕まった大学生は「盗んだ時の

マンガの人気者 力石徹の告別式

マンガ週刊誌「少年マガジン」に連載中の「あしたのジョー」(二月一五号)で壮烈な死をとげたボクサー・力石徹の「告別式」が、三月二四日、出版元の講談社講堂で小学生から大人まで約六〇〇人の参列者をまじえて行われた。力石は、同じ少年院育ちの主人公ジョーと死闘のうえ悲惨な死をとげる「敵役」。それが逆に読者の人気を集めたもので、「君は体制の幻想敵にすぎなかった」といった内容の弔辞が、編集長によって読み上げられた。

●土屋「園芸用にあなたの故郷の上を用意します」という商売お値段は、一袋一八〇〇円。北海道と沖縄は、運賃が加算されて五〇〇円。

新大久保では、一日に九〇〇〇組の愛と汗

東京・新大久保の同伴ホテルは二四〇軒で、平均二、三室。これが一日三回転するので、ざっと九〇〇〇組のカップルが毎日、この地域を利用していることになる計算だ。四月六日は特に盛況で、九室の「ホテル山王」は、部屋が全部あがって客は平均一時間待つことになった。室の「M」は、時間待ちだった。この日は日曜と人安が重なったため結婚ラッシュ。都内だけで三、四組が式を挙げた。それにおおられたせいという。

「週刊大衆」五月一四日号

この年の初めのたい焼きの自販機が東京・浅草に登場

●工口雑誌の自販機。万国博会場に置かれていたおしほりの自販機を業者が買い取って改造したもの。これが自販機本から、ピン本ブームへと展開していくきっかけを作った。

美女倶楽部

伴田良輔・選



▲ニューヨークのウォール街で屋外撮影された、女優・鶴淵晴子の大胆なヌード、「イッピー・ガール・イッピー」。広角レンズを用いた斬新なアングルと若く凛々しいモデルの肉体は、大きな反響を呼んだ。撮影、タッド若松。



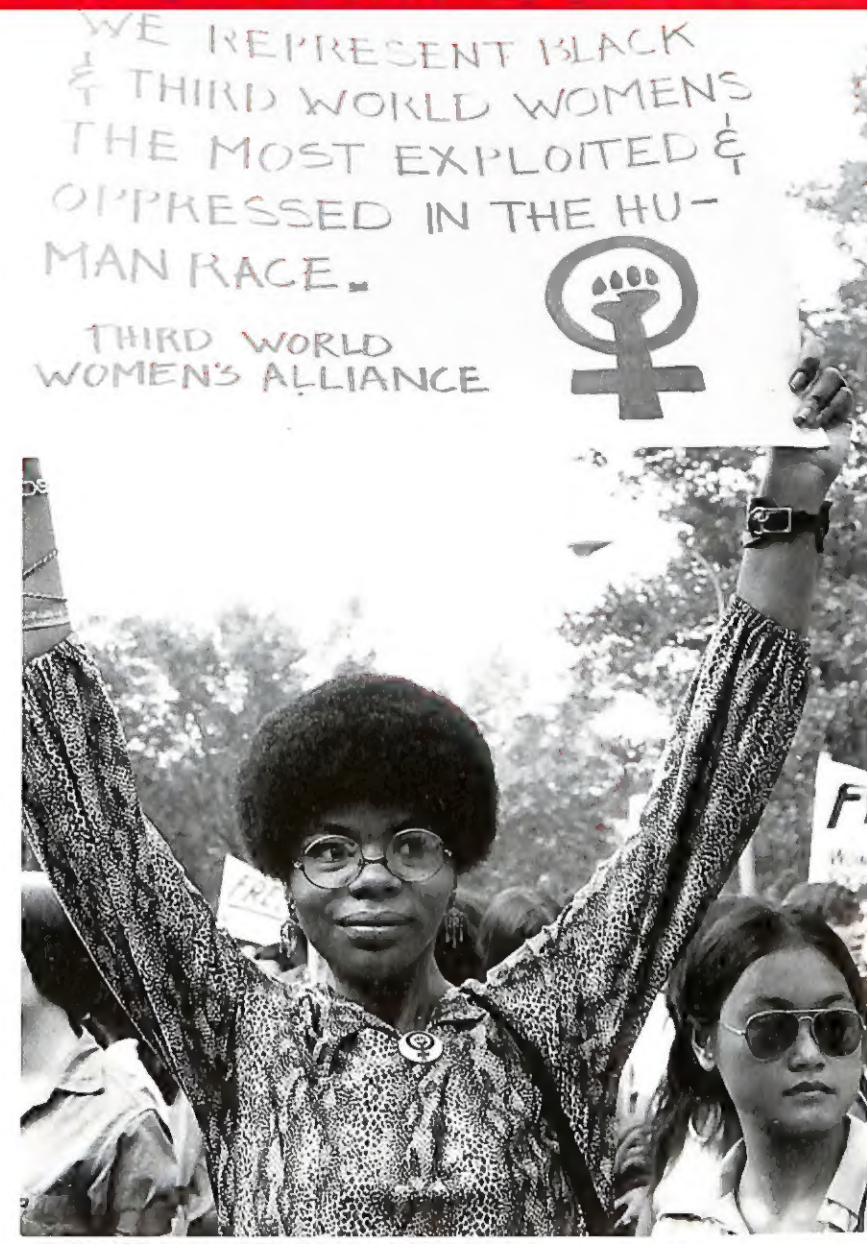
▲省力化と無料駐車防止を目的に、無人駐車場で金貨取替機「パークウ」が登場。

世界の動き

最高潮を迎えたウーマン・パワー！ 10万人の女性がアメリカ中の街頭を占拠した日



▲8月26日、全米各地で女性だけのデモ行進と集会が繰り広げられた。写真はワシントンのデモで、女性の自由や平等を掲げる参加者が目立った。CORBIS/BETTMANN PPS



▲行進には「黒人と第三世界の代表」という女性も参加した。Black Star PPS

一九六〇年代後半から七〇年代にかけて、アメリカで女性解放をめざすウーマン・リブ運動が活発になった。この運動は、女性の自立と社会進出をめざしたが、反面、離婚や母子家庭の増大をもたらすなど、米国社会を根底からゆるがした。

ニューヨークの五番街に 集まった女性たちの叫び

八月二六日、車の進入が禁止されたニューヨーク五番街の広々とした車道いっぱい、女性たちが集まり始めた。銀座通りの二倍の幅がある歩道には、それを見物する何万という市民、五時すぎには勤め帰りのビジネスマンたちも集まったが、くつろいで見物する人が多かった。

六時すぎ、女性たちが動き始めた。彼女たちは口々に「妊娠中絶の自由」「女性解放」と叫びながらセントラル・パークをめざした。

米国の婦人参政権獲得五〇周年にあたるこの日、ニューヨークで二万人、ボストンで三〇〇〇人など、全米の主要都市でおよそ一〇万人の女性が、街頭デモに参加した。彼女たちの要求は、①無料で妊娠中絶を行う施設の建設、②二四時間の公的な託児所の建設、③就職と教育に関する機会均等の三点だった。経済的な切実感はなく、夫と子どもに縛られずに自由になりたいという欲求が勝ったものだった。

この集会はウーマン・リブ史上の画期となったが、指導したのは、全国委員長のパティ・フリーダンである。一九六三年に『The Feminine Mystique』（邦題『新しい女性の創造』）を出版し、「何

▲「性の政治学」を書いたケイト・ミレット。



松本節子

百万という女性が、結婚という生活保障のために、みずからの個性、能力を犠牲にし、生きがいをみいだせないで家庭に生きたまま葬られている」として女性の解放を呼びかけた中心人物だった。

成果の獲得とともに 多くの矛盾も露呈

一九五〇年代のアメリカ女性たちの夢は、郊外の美しい家で、パイを焼き、子どもの送り迎えをするというものだった。しかし、同じ頃、ジャスト・ハウス・ワイフ「ただの主婦」という言葉が女性たちの心に忍び寄っていた。とるにたらないことをしているだけの女、これでもいいのだろうかという疑問である。

一九六六年に「全米女性機構」(略称はNOW、会長・フリーダン)が結成され、男女平等を要求し、女性が職場など社会のあらゆる方面に、しかもその中核への進出を目標とした。この運動は大きな成果をあげたが、「NOWは黒人女性を切り捨てている。よくなったのは白人の中産階級だけ」という指摘もある。

もうひとつの流れが、公民権運動に参加していた女性を中心の、ウイメン

「今や飛行機より鯨が大事」 リンドバーグ来日の目的

佐伯修



▲一九五四年、回帰録によりピュリッツァー賞受賞。

「翼よ、あれがバリの灯だ」の大西洋横断初飛行で名高い米国の飛行家、リンディとチャールズ・A・リンドバーグ（一九〇二〜七四）は、この年の四月二六日、羽田空港に降り立った。昭和六年八月二七日、妻のアンとともにフロートつき小型機「シリウス」で北太平洋を横断、霞ヶ浦に着水して以来三九年ぶりの来日で、表向きは理由は「シリウス」が展示されている大阪の万国博覧会訪問のためである。

前回の来日の翌年に起こった長男誘拐・殺害事件以来、極度のマスコミ嫌いになったと言われるリンディは、米国外使館におけるレセプションの席上、今や自分にとっては「飛行機より鯨が大事」と主張して、報道関係者を驚かせた。

「日本は二大捕鯨国のひとつ。鯨の専門家もそろっている。今後、捕鯨船団に国際組織の監視人を置いて、捕獲量を確かめねば……」（『朝日新聞』四月二八日）

昨今の反捕鯨運動の一部のようなヒステ

リックさはないが、日本の捕鯨に対する環境・野生生物保護方面からの風あたりの強まりを、この発言は印象づけた。実は、今回、彼が来日した真の目的は、同行の次男・ジョン（海洋生物学者とともに、日本の捕鯨関係者に会うことだったのである。リンディは、世界各地を飛行機で飛ぶうちに環境破壊の深刻さを強く感じ、それが鯨の保護運動へと向かう動機につながったとも、このレセプションで述べている。

さて、リンディといえば、ナチス・ドイツの空軍幹部との親交（これは事実である）や、最近の長男誘拐狂言説など、今もってスキヤングラスな話題が尽きない。

そんなリンディは、第二次大戦末期、南太平洋で、戦闘機乗りとして日本と戦った。その間の日記には、日本軍の残虐行為に触れたくだりはあっても、日本人への憎悪や偏見はほとんど見られず、逆に捕虜を面白半分に殺したり、日本兵の死体から金歯を抜いたり、日本側に協力したと称して現地住民の村を襲う米兵の姿が綴られている。それを読むかぎり、ベトナム戦争の米軍は「悪い米軍」だが、太平洋戦争の米軍は「よい米軍」だった、というのは誤りのようだ。

日記からは、米軍内に、敵の残虐を理由に味方の残虐行為を許す傾向が蔓延するのを、彼が米軍のために憂えていたことが読みとれる。しかし、彼が米軍の恥部を暴いたことは、ドイツ軍人との交際とともに、米国の一部で反感を生み、スキヤングルを生む原因ともなっているのではなかろうか。

ズ・リベレイション」（この言葉がウーマン・リブと呼ばれた）の運動で、一九六七年には女性解放運動の組織化を始める。

この運動は地獄的な話し合いのサークル活動を大切に。男女の育児や家事分担、職場での性差別、中絶など問題は多岐にわたったが、この活動で女性の意識が少しずつ変わっていった。

また、一九七〇年には、ケイト・ミレットの『性の政治学』も運動に大きな影響を与えた。ここでは家父長制と女性の地位の関係を分析し、文学者や思想家の持つセクシズム（性差別主義）を暴露、批判した。こうした運動が最高潮に達したのが八月二六日の行進で、ウーマン・パワーを誇示するものとなったのである。

だが、運動は多くの成果を獲得すると同時に、離婚の増大、家庭の崩壊、母子家庭の増加など多くの矛盾を抱えるようになった。女性解放の進行が早すぎて、社会と男性が追いつかなかったのかもしれない。最近、「二休、女性解放運動を通じて、我々は幸せになったのだろうか」という声も生じている。

▼昭和46年8月、長野県飯山市で3泊4日の「リブ合宿」が行われ、運動の出発点となった。

の対象でしかない女性を表し、こうした性そのものの見直しを訴えた。本格的なリブ運動はここから始まる。

同年一〇月「ぐるーぶ・闘うおんな」が結成され、翌年の長野合宿には、〇〇人の女性が集まった。また、二年後には、「リブ新宿センター」を開設する。しかし他の婦人運動や労働組合、行政との接点を持たない彼女たちの運動は、ラジカルだったが、社会に対して広がりや欠き、大きな力とならなかった。

ただ、彼女たちの重たいメッセージは、今も生きている。

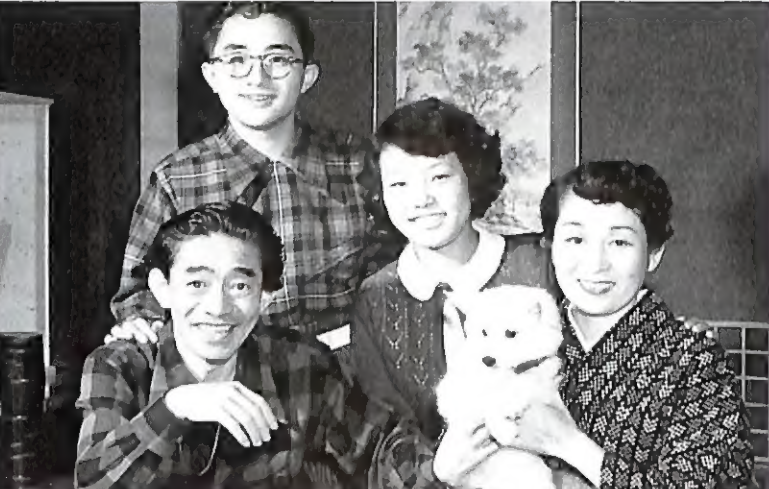
ベティ・フリーダン（Betty Friedan）
米国女性運動の指導者。スミス・カレッジ卒業。心理学専攻。一九六六年に『全米女性機構』を設立して会長をつとめる。著書に『新しい女性の創造』『老いの恩恵』などがある。

往きて 還らぬ



▲5月7日 鈴木茂三郎(77)
元社会党委員長。昭和3年に無産大衆党を結成。剛直な左派リーダーの反面、泣きむしモサと呼ばれた温情派。

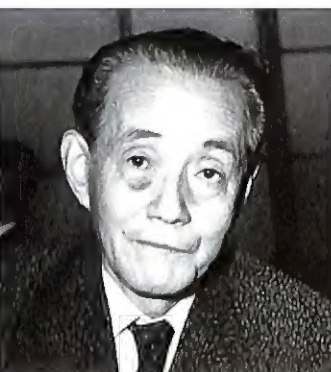
▼1月7日 榎本健一(65)
「喜劇王エノケン」として昭和の初期から戦後まで、映画と舞台上で絶大な人気を博した。約200本の映画に出演。



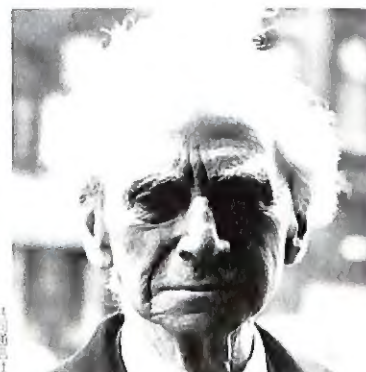
▲5月19日 岡晴夫(54)
歌手。高音を鼻に抜く独特の「岡節」が、大衆の人気を呼んだ。ヒット曲「啼く小鳩よ」「東京の花売娘」など。



▲1月25日 円谷英二(68)
特殊技術撮影(特撮)の草分けで、怪獣映画「ゴジラ」やテレビのウルトラシリーズなどを手がけた。



▲8月12日 西条八十(78)
詩人。歌謡曲の作詞も多く手がけ、数々のヒット曲を生んだ。「東京音頭」「誰か故郷を想わざる」など。



▲2月2日 バートランド・ラッセル(97)
イギリスの数学者、哲学者。共著「数学原理」で記号論理学の発展に貢献。平和主義者で反戦・反核運動も行った。



▲10月28日 沢田敦一(34) ピュリッツァー賞を受賞した報道カメラマン。カンボジアで前線取材中、銃撃を受けて死亡。



▲11月9日 シャルル・ド・ゴール(79)
仏の軍人、政治家。「フランスの救済者」として第2次大戦中、自由フランス政府を組織。1958年に大統領に選ばれた。



▲9月18日 ジミ・ヘンドリックス(27)
ミュージシャン。1960年代ロックを代表する天才黒人ギタリスト。麻薬を常用し、変死体で発見された。



▲11月22日 大宅壮一(70)
毒舌反骨の社会評論家で、「一億総白痴」などの新造語を生んだ。死後、蔵書をもとに「大宅文庫」が作られた。



▲10月31日 森田たま(75)
随筆家。昭和7年「着物・好色」でデビュー。「もめん随筆」がベストセラーに。37年には参院選に当選。



▲11月29日 ニナ・リッチ(87) 服飾デザイナー。イタリア出身で13歳から裁断の修業を始め、1932年パリにブティックを開店。香水でも有名。

「日録20世紀」20号までの刊行スケジュール

(毎週火曜日発売。変更になる場合もあります。なお、刊行日は首都圏基準です)



1959 日録20世紀 248
創刊号(2月18日号)1959[昭和34年]
好評発売中●世紀のご成婚! ●巨
大「伊勢湾台風」の猛威 ●マイカ
元年! わが家に車がやって来た ●
フルシチョフ首相の「歴史的」訪米



1964 日録20世紀 225
第2号(2月25日号)1964[昭和39年]
好評発売中●東京オリンピック開
催! ●新潟地震と産業都市ののろ
さ ●新幹線「ひかり」、4時間で走
る ●米キング牧師にノーベル平和賞



1945 日録20世紀 34
第3号(3月4日号)1945[昭和20年]
好評発売中●マッカーサーの2000
日 ●広島と長崎に原爆! 死者は31
万人 ●8月15日の「天皇と国民」 ●
ポツダム宣言と米ソ冷戦の始まり



1970 日録20世紀 311
第4号(3月11日号)1970[昭和45年]
好評発売中●三島由紀夫、割腹自
殺! ●EXPO '70で日本も大の仲
間入り ●「よど号」ハイジャック ●
ウーマン・リブ、全米で10万人デモ



1963 日録20世紀 318
次号(3月18日号)1963[昭和38年]
3月4日発売 ●ケネディ暗殺事件!
●「水俣病とチンパン」に決定的証拠
●ホンダ車などオートバイ世界一
に ●えん罪晴れた「昭和の嵐魔王」



1958 日録20世紀 325
第6号(3月25日号)1958[昭和33年]
3月11日発売 ●巨人軍・長嶋茂雄デ
ビュー! ●若者にロカビリー旋風
●流通革命! スーパー・ダイエー
●号店 ●ド・ゴール、仏大統領に就任



1972 日録20世紀 41
第7号(4月1日号)1972[昭和47年]3
月18日発売 ●連合赤軍「浅間山荘」
事件 ●日中国交回復の「乾杯!」 ●
27年ぶりに沖縄が日本に還る ●テ
ルアビブとミュンヘン五輪の流血



1980 日録20世紀 48
第8号(4月8日号)1980[昭和55年]3
月25日発売 ●山口百恵が引退! ●
ついに日本車の生産台数が世界一
に ●衝撃の金属バット殺人事件と
家庭内暴力 ●韓国光州事件の真相



1976 日録20世紀 415
第9号(4月15日号)1976[昭和51年]
4月1日発売 ●角栄逮捕! 政界に激
震 ●山下家に五つ子ちゃん誕生 ●
サービス革命! 「クロネコ」走る ●
毛、周死去、文革がようやく終わる



1989 日録20世紀 422
第10号(4月22日号)1989[平成元年]
4月8日発売 ●昭和天皇ご大喪! ●
吉野ケ里発掘と邪馬台国論争 ●消
費税3パーセント、混乱と不安のス
タート ●中国で天安門広場の惨劇

●第11号(4月29日号)1960[昭和35年]4月15日発売
「安保」で国内騒然 ●所得倍増計画発表 ●清張ブーム ●アフリカ独立国続出
●第12号(5月6日号)1961[昭和36年]4月22日発売
ケネディ、大統領就任 ●「金の卵」大モテ ●アンネ発表 ●朴正熙、権力の座に
●第13号(5月13・20日号)1962[昭和37年]4月28日発売
「無責任男」大人気 ●東京が1000万都市に ●YS11が翔ぶ ●キューバ危機
●第14号(5月27日号)1965[昭和40年]5月13日発売
沖縄とベトナム戦争 ●日韓基本条約可決 ●ジャルパックに人気 ●北爆開始
●第15号(6月3日号)1966[昭和41年]5月20日発売
ビートルズ来日 ●航空機事故が相次ぐ ●巨大タンカー登場 ●中国で文革

●第16号(6月10日号)1967[昭和42年]5月27日発売
ツイッキー来日 ●美濃部都政スタート ●公害列島ニッポン ●初の心臓移植
●第17号(6月17日号)1968[昭和43年]6月3日発売
日大紛争と全共闘 ●若者と「あしたのジョー」 ●3億円事件 ●プラハの春
●第18号(6月24日号)1969[昭和44年]6月10日発売
日本、GNP世界2位 ●安田講堂攻防戦 ●「男はつらいよ」 ●アポロ、月に
●第19号(7月1日号)1941[昭和16年]6月17日発売
真珠湾攻撃 ●ゾルゲ逮捕 ●李香蘭、日劇で歌謡ショー ●独ノ戦が始まる
●第20号(7月8日号)1942[昭和17年]6月24日発売
ミッドウェー海戦 ●朝鮮人に強制連行 ●在米日系人の運命 ●ユダヤ人虐殺

●創刊号は、特価290円。第2号から第8号は、定価550円。第9号(4月発売号)からは定価660円です。
●バックナンバーは、お近くの書店でお願いします。直接弊社にご注文の場合は、冊数に関係なく、送料200円のご負担となります。なお、代金と送料は先にお送りください。申込先 読者サービス係 電話03-5395-3676 (1997年2月現在)

専用バインダーでつくる「20世紀」ライブラリー全10巻

高級感あふれる特製バインダーを用意しました。「日録20世紀」全100巻を10冊ずつ年代順にバインダーにまとめてそろえれば、「20世紀」ビジュアル百科のできあがり。10年ごとに分類するためのシールも添付してあります。取りはずしは簡単で、整理にも便利、じょうぶな仕上がりです。あなたの書斎を飾るホーム・ライブラリーとして、永く保存してお楽しみください。バインダーは1部1300円(本体価格)。全国の書店でお求めください。



▲都内を視察する国際シンポジウム参加者たち。

東京宣言
東京で開催された公害問題国際シンポジウムで、三月二日に採択された宣言のこと。公害の解決をはかるために社会や経済の大幅な制度的変革を求め、国際的機関として公害委員会を設置することを提言した。シ

シンクタンク
企業や政府が経営戦略や政策の立案などに活用して、さまざまな分野の専門家を集めて研究・調査させる機関。アメリカ空軍のランド研究所などがある。日本では昭和四〇年の野村総合研究所が最初。四五年五月七日には三菱総合研究所が発足し、以降

歩行者天国
八月二日、東京・銀座などで第一回が実施された。道路を、一時的に歩行者に開放し、排気ガスや騒音のない街にしようとする試みだった。美濃部東京都知事が四二年の就任以来進めたが、警察や商店街の反対が強かった。しかし、多発する光化学スモ



▲製紙工場の排水により、駿河湾田子ノ浦港にはヘドロが沈殿した。



▲LSIが使われた卓上電算機利用の電算室。

光化学スモッグ
紫外線による光化学反応によって大気中に高濃度のオキシダントとアルデヒドが生ずる現象。自動車の排気ガス、化学工場やゴミ焼却炉が排出する窒素酸化物や炭化水素が原因とされ、発生する目的の痛みや頭痛、吐き気を催す。七月一日に移住区の高校で生徒四三人が吐き気などで倒れた事件を、東京都は日本でも初めて光化学スモッグが原因と推定した。

国民総皆番号制
国民の一人一人に認識番号をつけ、各人が持つ情報をコンピュータによって集中管理し、行政上の事務処理を効率化しようとする制度。行政管理局を中心に構想されたが、国民は迅速で平等な行政サービスが得られるという利点がある反面、個人のプライバシーが侵されたり、国家に国民管理手段を与えたりとの強い批判があり、実施されなかった。

ミニ事典 1970年のキーワード

マル生
国鉄(現・JR)が財政再建のために進めた生産性向上運動。三月二〇日に能力開発課を設置して開始。最大の力点を合理化を唱える国労・動労の弱体化におき、組合の切り崩しを激しく行なった。これに対し組合側は反対運動を展開。四六年一〇月、公労委がマル生を不当労働行為と認め、磯崎総裁が組合に謝罪。関係者を処分して中止された。

リアモーターカー
軌道と車体の間に磁力を働かせ、その反発力と吸引力で走る列車。東海道新幹線の輸送需要の増大に対処するため、国鉄(現・JR)総研は五月一八日に、一五人の研究・開発チームを設立。動力の伝達が車輪とレールの摩擦によらないため、時速五〇〇キロ、東京―大阪間を「一時間余で結ぶ」ことが可能とされた。現在は山梨県で実験新線が建設されている。

ABM
飛んで来るICBM(大陸間弾道ミサイル)を迎撃し防衛するミサイル。弾道弾迎撃ミサイルの略称。アメリカが、この年八月二八日、太平洋上での実験に成功し、米ソのミサイル開発競争を激化した。その後、SALT(戦略兵器制限交渉)の過程で、一九七二年(昭和四七)と七四年に制限条約が結ばれ、両国とも国内一カ所一〇〇基と規定。この条約はソ連崩壊後も継続されている。

週刊YEARBOOK「日録20世紀1970」CONTENTS	
●特集	三兆三〇〇億円の経済効果! EXPO'70が日本を「大國」に
●三島由紀夫の「割腹自殺」	6
●日本初のハイジャック!	27
●日航機「よど号」乗客の「二三時間」	27
●ウーマン・パワーの爆発	38
●10万人が全米の街頭を占拠した日	38
●「ユース・ファイル」	10-30
●フォト・日録で再現する365日	10-30
●女たちの肖像	9
●デビ夫人のバリ生活	9
●勝者敗者	9
●逆転の貴公子大場政夫	9
●証言・あの日の日	9
●坪内祐三	9
●自転車文化センター(東京)	17
●桑原茂夫	17
●現場を歩く	17
●南アルプス・スパー林道	26
●山本徹美	26
●美女倶楽部	37
●伴田良輔	37
●外から見たNIPPON	40
●リンドバークと捕鯨問題	40
●佐伯修	40
●人物クロニクル	40
●広中平祐・フィールズ賞受賞	20
●決定的瞬間	22
●南ベトナムの恐怖、虎の檻発見	22
●美の出会い	24
●バリが注目した高田賢三のデビュー	24
●ベストセラー	18
●スターと名場面	18
●モノ語り	36
●往きと還り	42
●ミニ事典	42

Nikon



F・新次元。

ますます多様化する、写真を撮るための新しい道具として
求められる資質をひとつひとつ追究し、深め、積み重ねていくこだわりの作業。
その結果として、いずれの機能も、いずれの機構も、高められ、洗練され、ついに、1台のカメラがここに誕生しました。
Nikon F5。それは、映像表現の新たな可能性を創造する、最も新しいカメラのかたちです。

新たな映像表現への数々の高性能 ●ピント合わせを革新する、5つのフォーカスエリアを持つ高速・高精度オートフォーカス。●世界初、色までも判断して適正露出へと導く、高精度3D-RGBマルチパターン測光。●瞬間を制する圧倒的な瞬発力。約8コマ/秒の超高速連続撮影(ニッケル水素電池MN-30使用・コンティニュアスAFサーボまたはマニュアルフォーカス・シャッタースピード1/250秒以上)。●次世代の操作性を提案する、新感覚のカメラオペレーション。●前後ボディはもちろん、上下カバーまでもアルミダイキャストでガードした頑健なボディと、チタン採用のファインダーカバー(マルチフォトリックファインダー-DP-30)。●Fマウントにより幅広く対応する、卓越したレンズ互換性。●4種の交換ファインダーをはじめとする多種・多彩な専用アクセサリ。

そして 映像は未体験領域へ

Nikon F5

新発売

希望小売価格(税別) ボディ本体(ストラップ付)¥325,000/AFニッコール50mmF1.4D付¥360,000 標準装備:マルチフォトリックファインダー-DP-30・EC-Bスクリーン

ニコンF5は3年保証。お客様の信頼に品質でお応えします。(ニコンF5ボディ本体は、保証書に記載の保証規定によりご購入日から3年間、保証修理をいたします。くわしくは、当社サービス機関にお問い合わせください。)

■NIFTY-Serveで「ニコン・ステーション」を開設しています。「GO-SNIKON」でお気軽にアクセスしてください。

■カタログをご用意しています。機種名をご明記の上、100-91東京中央郵便局私書箱1269号 株式会社ニコン お客様相談室 20世紀係宛ご請求ください。



株式会社 ニコン

本社 100東京都千代田区丸の内3-2-3(富士ビル)

製品に関するお問い合わせは「お客様相談室」まで。電話(03)3216-1010

